

## 講師・支援研究者・協力者紹介

### 講師(番組担当)

#### 太田 満(おおたみつる)

北海道赤平市生まれ。天理大学外国語学部ロシア語学科卒業。外国語学士。  
旭川アイヌ語教室講師。ロシア語・ルーマニア語法廷通訳。  
北海道教育大学旭川校非常勤講師。ラジオ講座教科書校閲も担当。

### 支援研究者(教科書執筆担当)

#### 井筒 勝信(いづつかつのぶ)

神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。  
北海道教育大学旭川校助教授。  
専門は機能主義・認知言語学に基づく西洋語・東亜語対照研究。

### 協力者

#### 録音協力(声の出演)

#### 川村シンリツ・エオリパック・アイヌ(兼一)

旭川市近文コタン生まれ。川村カ子トアイヌ記念館第三代目館長。  
1987年より旭川アイヌ語教室を主宰し、イオマンテを行うなど積極的に民族の精神と伝統・文化の保存と発展に努めている。祖父君はコタンコロクルで記念館初代館長のイタキシロマ翁。  
父君は測量技師としてもアイヌ文化伝承者としても著名な  
記念館第二代目館長川村カ子トゥカアイヌ翁。

#### 杉村 フサ

旭川市近文コタン生まれ。  
夫君の故杉村満氏と共に旭川アイヌ語教室の開設以来の主要な構成員で、近年ではアイヌ語上級講座講師も勤める。刺繍、踊り、料理を中心に民族の伝統・文化の保存と普及に努めている。  
母君はアイヌ語・アイヌ文学の伝承者として名高い杉村キナラブック媼。

### 教科書執筆協力(ドリル原案作成)

#### 手塚 順孝(てづかよりたか)

東京都板橋区生まれ。中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了。修士(文学)。  
米国ポートランド州立大学大学院TESOL修士課程修了。英語科教授法修士。  
中央学院大学兼任講師・明治大学法学部非常勤講師。  
専門は言語政策・言語教育を対象とした認知言語学的研究。

## アイヌ語ラジオ講座のスケジュール

| 月  | 日   | タイトル          | ページ |
|----|-----|---------------|-----|
| 7月 | 4日  | 一つ、二つ         | 5   |
|    | 11日 | ~してくれ         | 7   |
|    | 18日 | 誰が、誰を         | 9   |
|    | 25日 | 練習問題(3)       | 11  |
| 8月 | 1日  | ~として          | 13  |
|    | 8日  | 一人がする、大勢がする   | 15  |
|    | 15日 | ~するもの・~したもの   | 17  |
|    | 22日 | 練習問題(4)       | 19  |
|    | 29日 | アイヌ語からみたアイヌ文化 | 21  |
| 9月 | 5日  | 良い、悪い         | 23  |
|    | 12日 | 出来る、出来ない      | 25  |
|    | 19日 | ~するな、~しよう     | 27  |
|    | 26日 | 練習問題(5)       | 29  |

### 【旭川アイヌ語教室の活動について】

旭川アイヌ語教室は、毎週日曜日、18時30分から21時まで、旭川市市民生活館で開講されています。受講資格などの制限はなく、どなたでも参加できます。お問い合わせは  
川村カ子ト アイヌ記念館(電話 0 1 6 6 - 5 1 - 2 4 6 1)  
までお気軽にご連絡下さい。また、記念館公式ホームページ( <http://www.g-web.co.jp/ainu/> )もご覧下さい。

# アイヌ語旭川方言：発音と表記法

## アイヌ語旭川方言

本年度のアイヌ語ラジオ講座では、旭川方言を学びます。ここで旭川方言と呼ばれるのは、主に石狩川中流域から上流域にかけての地域で話されていた言葉です。石狩方言と呼ばれることもありますが、「石狩」という地名を用いると札幌を中心とする現在の石狩支庁を想起しやすく誤解を招きやすいことからこの名称を避け、むしろ当該方言話者の主な生活地であり、またこの方言のアイヌ語教室の開催地でもある「旭川市」から名前を取って旭川方言と呼ぶのが慣習的になってきています。

旭川方言は、石狩川にあるカムイコタンより下流に住むパニウクル(川下の人)の言葉とカムイコタンより上流に住むペニウクル(川上の人)の言葉の二つに下位分類されます。それぞれ、空知方言と上川方言と呼ばれることもあります。これら二つの下位方言は、他の地域の方言と比べれば互いに極めて似通っているのですが、パニウクルとペニウクルの人々は互いの微妙な言葉遣いの違いを意識していたようです(第一期の教科書kampinuye 6の「文化的背景」の項を参照)。このような方言上の差異はそれぞれの地域のアイデンティティーを象徴するものであったのか、川下から川上へあるいはその反対に移り住んだものは行った先の言葉を使うよう強く勧められたり、元の地方の言葉をあからさまに使い続けると、たしなめられたりしたそうです。

また、目下調査中のため、まだはっきりとしたことは言えないのですが、古い資料などから石狩川の下流域から河口にかけての地域で話されていた言葉も旭川方言とおおむね同様な方言であった可能性が示唆され始めています。もし、この示唆が事実であるとなると、上川方言と空知方言からなる旭川方言と石狩川下流域の方言全てを包括するより大きな方言は「石狩方言」と呼ぶのがふさわしいかもしれません。この方言は全て石狩川筋に分布するわけですし、札幌の一部もこの方言圏に属することになるからです。このようなことを考えると、今後これらの方言に関して行われる研究の動向からは目が離せません。

## アイヌ語旭川方言の発音

アイヌ語の他の方言と同様、旭川方言でも意味の違いを生じる音の最小単位(音素と呼ばれます)は、ア、エ、イ、オ、ウの五つの母音とカ、サ、タ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、ワ、チャ、パの中でアの前に響く11の子音(アルファベットでは、k, s, t, n, h, m, y, r, w, c, pと表記されます)を合わせた計16個だけです。ただし、意味の違いを生じないものの、カ、サ、タ、チャ、パの代わりにそれとはやや異なる響きを持つ音(異音と呼ばれます)が用いられることもあります。カの代わりにガ(例:インカラをインガラ)、サの代わりにシャ(例:サマニをシャマニ)、タの代わりにダ(例:ネコンタをネコンダ)、チャの代わりにジャまたはザ(例:アチャガをアジャガまたはアザガ)、パの代わりにバ(例:サパをサバ)が使われることがあります。これら交替する音同士(異音同士)はどちらを使っても基本的には良いのですが、旭川方言としてより頻繁に使われる音というのも実際あるようで、パペビボブの代わりにバペビボブはその代表的なものです。

このような音の変化に加えて、子音が連続する場合・母音が連続する場合の音の変化があります。また、アクセントとその位置、音節末の子音などアイヌ語の発音についてやがては知っていかなければならないことがまだ幾らかあります。けれども混乱するといけませんので、ここで更に詳説することを避けたいと思います。まずは講座で発せられる実際の発音に注意深く耳を傾けて、そこで聞かれる音に慣れることを目標としましょう。第二期以降になって個々の単語や句の発音に慣れてきた頃に、ここで扱わなかった事柄を改めて取り上げ、それらについても少しずつ学んでいくことにします。

## アイヌ語の表記法

アイヌ語には、比較的最近まで正書法というものが存在しませんでした。研究の場で比較的長きに渡って実践されてきたアルファベットとカタカナ併記による表記法が『アコロイタ』(北海道ウタリ協会1994)という教科書で採択され、それが正書法に近い形で確立されました。本講座でも、教科書の本文ではこの表記法にないませんが、旭川アイヌ語教室での実践に従ってアルファベット表記を優先的に用い、カタカナは発音などを捉えやすくするための補助的な使用にとどめます。従って、本文以外の解説でのアイヌ語表記には基本的にアルファベットを用いています。これは、アイヌ語以外の言語を母語とする人がアイヌ語を学ぶ際の便宜を図るもので、今後の正書法確立に対して何ら特定の示唆を意図したものではないことを申し添えておきます。

## アイヌ語の文体

日本語でも口語体と文語体の区別があるようにアイヌ語にも類似した文体の区別があるようです。これは、第一期の教科書のkampinuye sine(第一課)の文化的背景で紹介したように、動詞に見られる「単数と複数」という文法的(形式的)な区別と意味・機能上で関係が深いようです。親しいもの同士で交わされる日常的な会話や文学性の必ずしも高くない語り物で用いられるのが口語体とでも呼ぶことが出来る文体で、これは方言的な差異も大きく時にはぶっきらぼうな言い方に響くこともある言葉遣いです。それに対して、初対面の人同士やあるいは社会的地位に差のある者同士の間で交わされるより正式な言葉遣い、文学性の高い語り物ないしは謡い物で用いられる言葉遣いは文語体とでも呼ぶことが出来る文体で、しばしば丁寧な言い回しと受け取られます。

子供の自然な言語獲得という観点から見ると、口語体を身に付けるほうが圧倒的に早く、文語体はそれよりも大分後になってから獲得されるはずなのですが、大人が別の言語を母語として身に付けた後に異言語としてアイヌ語を学ぶとなると最初に口語体のみを学び始めるのは余り得策とはいえません。ある意味ではぶっきらぼうな、またある意味では子供っぽい言葉遣いをするようになるからです。

そこで、第一期の前半では同じ口語体でも完全な略式の言い回しではなく、やや文語寄りの正式な言い回しを先ず取り上げ、第一期の後半で略式の言い回しを学ぶことにしました。そうすることで、学んだ表現をすぐさま使ったとしても、大人の言葉遣いとしてそれほど不適切ではないアイヌ語で会話が出来るよう配慮しました。これを受けて、第二期からは文語について少しずつ触れていくことになります。

# kampinuye 14 (inep ikasma wan): 一つ、二つ

カンピヌイエ イネナイカシマワン

|                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| A: ayapo. tan pekanpe sonno numi poro siri.<br>アヤボ タンペカンペソンノヌミポロシリ                                                                                                                                                                                | あら、この菱の実随分大きいね。                                                               |
| B: awtan acapo en=kore p ne korka tonokotan ta tanpe<br>アウタンアチャポエンコレネコロカ トノコタンタタンペ<br>nenonumi poropekanpe an=uk yak an=ye. tonokotan<br>ネノヌミポロペカンペアヌッヤカイェ トノコタン<br>wasine amkirkur ek wa acapo kore sekor hawas na<br>ワシネアムキリクルエッワ アチャポコレセコロハワシナ | となりのおじさんがくれたんだけど、内地で<br>こういう大きいのが採れるんだって。内地から<br>知り合いが一人来て、おじさんにくれたん<br>だってよ。 |

## 学習の要点

1. sine, sinep, sinen

アイヌ語で数を表す言葉は、基本形が形容詞です(伝統的なアイヌ語文法では連体詞と呼ばれます)。ですから、そのままの形で名詞の前に置かれて「一つの」、「二つの」、「三つの」...という意味になります。「一つの」は、第1期のkampinuye 5「学習の要点2」で、oya「他の」との関係で学んだsine「一つの、同じ」です。「二つの」から「十の」までは各課のタイトルでkampinuyeの後に書かれているとおり、それぞれtu、re、ine、asikne、iwan、arwan、tupesan、sinepesan、wanです。これらに、日本語の『一つ』、『二つ』の『〜つ』や『一人』、『二人』の『〜(た)り』にあたる語尾(伝統文法では接尾辞と言います)がついて**sinep「一つ」**、**tup「二つ」**や**sinen「一人」**、**tun「二人」**という語になります。『〜つ』に当たる語尾は-pか-pe、『〜(た)り』に当たる語尾は-nか-iwです。母音で終わる数(sine、tu、re、ine、asikne)には一文字の方(-p、-n)、子音で終わる数(例えばiwan、arwan、tupesan、sinepesan、wan)には二文字のほう(-pe、-iw)が付きます。

|     | 1     | 2   | 3   | 4    | 5       | 6       | 7       | 8         | 9           | 10    |
|-----|-------|-----|-----|------|---------|---------|---------|-----------|-------------|-------|
| 基本形 | sine  | tu  | re  | ine  | asikne  | iwan    | arwan   | tupesan   | sinepesan   | wan   |
| 個数  | sinep | tup | rep | inep | asiknep | iwanpe  | arwanpe | tupesanpe | sinepesanpe | wanpe |
| 人数  | sinen | tun | ren | inen | asiknen | iwaniw  | arwaniw | tupesaniw | sinepesaniw | waniw |
| 語尾  | -p,-n |     |     |      |         | -pe,-iw |         |           |             |       |

ここで学んだ-p、-peは「〜(する)もの(物・者)」とも訳されます。tanpe「これ」、taanpe「あれ」の語尾も同じ-peで、それぞれ「この・もの」、「あの・もの」という要素から来ています。それに対して、taniw、taaniwという形は記録されておらず、存在しない可能性が高いです。これは、それらが存在した場合に果たすと想定される機能を tanpe、taanpe が果たすからかもしれません。

2. na

naは、文の最後で用いられて「文の内容を確認する(念を押す)」、「聞き手に対する親しみの念を加える」など、話し手が聞き手に対して何らかの心的な働きかけをしていることを意味します。そのため、日本語では「〜(だ)よ」や「〜(だ)ぞ」、「〜(だ)からな」のように訳されることが多いようです。naは、話し手が主語となる文と聞き手が主語となる文のどちらにも付きます。話し手が主語となる文は、典型的に「表現される行為を話し手がする意志の再確認」あるいは「そのような意志の親しみを込めた伝達」といった働きをします。

ku=hosipi na.私は帰るぞ。

es=koinkar=an na.私はお前たちを見守(つてい)るよ。

それに対して、**聞き手が主語となる文の多くは「ある行動を聞き手がすることを求める」働きをします。**

or ta e=oman na.そこへ行くんだよ。  
an=ye p e=nu nankor na.私の言うことを聞くんだぞ。

話し手でも聞き手でもない存在(文法的には三人称と呼びます)が主語となる文、あるいは話し手が主語でも用いられる動詞が「意志で制御できない行為や状態」を表す文は、「文の内容の念押し」または「話し手の聞き手に対する親しみの念」といった働きをします。

ene hawas na.(彼は)そう言ったんだぞ。  
sampewen=an na.私は具合が悪くなったよ。

## 今日の構文

**文... + korka + 文~**: ...**(する・した)けれども・のに**~**(する・した)**

**korka**は、**譲歩を表して「〜(する・した)けれども・のに」という意味で用いられます**。korkaを使うことによって、話し手は「先行する**文...**(従属節)の表す状況が後続する**文~**(主節)で表現される状況と普通は両立しない」という判断を下していることを伝えます。

ruyanpe as korka ekasi ek. 雨が降ったのに、おじいちゃんは来た。

ekasi sinewe kusu ek korka huci isam. おじいちゃんが遊びに来たのに、おばあちゃんはいない(いなかった)。

korkaは、kor「〜(し)つつ・ながら」という語とka「も」という語から出来ているように見えます。興味深いことに、これらの語の意味に相当する日本語を組み合わせると『〜(し)つつも』や『〜(し)ながらも』のように、やはり「譲歩」の意味が表現出来ます。「雨が降りつつも、おじいちゃんは来た。」や「おじいちゃんが遊びに来ながら(も) おばあちゃんはいなかった。」と言っても同様な意味はある程度伝わるのではないでしょうが。

## 文化的背景

山菜などの食用植物を採る動作を表現するのに、少なくとも四つの動詞 ta、kar、uk、yanke が用いられます。**ta**は「**根をはじめとして土の中になるものを採る**」ことを言い、しばしば「**sirtapと呼ばれる棒で掘る**」ことを指します。**kar**は「**草木の枝・茎から実などを摘んだりもいだりする**」ことを、**uk**は「**地面に落ちていたり水面に浮いていたりする(しばしば硬い)実を拾う**」ことを、yankeは道具などで「**ひっかけて採る**」ことを意味します。それぞれの動作で採取されるものには、次のようなものがあります。

| 採取動作の表現       | 採取される代表的な食材                                           |
|---------------|-------------------------------------------------------|
| ta(土の中から)     | puy「ヤチブキの根」、turep「ウバユリの根」、aha/eha「ヤブマメ」、unintep「オニヤガラ |
| kar(草木の枝から)   | hat「山ウド」、kutci「コクワの実」                                 |
| uk(地面・水面から)   | pekanpe「菱の実」、ninum「クルミ」、nisew「ドングリ」                   |
| yanke(水から道具で) | kapato「コウホネの根」                                        |

## 言葉をもう少し詳しく

pekanpe「菱の実」という語は、pe-ka-un-pe(水・の上・にある・もの)またはpe-ka-an-pe(水・の上・ある・もの)に分解でき、アイヌ語では「水に浮いているもの」くらいの意味です。『菱形』などということからも分かるように、日本語ではその形が注目されているのと対照的で、アイヌ語では採れる場所に着目した命名になっています。アイヌ語の単語はこのように意味を持ったより小さな要素(言語学では形態素と言います)に分析できることが、日本語に比べて多いようです。pekanpeの最初の要素となっているpeは、単独では語として使われることはほとんどないいわゆる形態素です。この形態素が入った語には他にもnupe「(感情を伴って出る)涙」、sikpe「(あくびなどで出る)涙」、pene「(どろどろに)腐る」があります: nu-pe(目・水)、sik-pe(目・涙)、pe-ne(水・になる)、nu-も語ではなく形態素で nukar「見る」などの語にも見出されます。このように単語ばかりでなく形態素にも注意を払っていくと、長い単語も意外と理解しやすく、また覚えやすいかもしれません。

## 今日の単語

acapoアチャポ【名詞】**おじさん**。; an=onaha yupi ne yakka aki ne yakka(父の兄または弟)  
amkirkurアムキリクル【名詞】**知り合い**。; an=eraman kur(知っている人)  
an=アン【人称接辞】[ +動詞] 私たち(が〜する) **一般に人(が〜する)(〜さ)れる**。; [ +名詞] 私たち(の〜)  
awtanアウタン【形容詞】**となりの**。; i=sam ta an(そばにある・いる)  
ayapoアヤポ【間投詞】**あら、あれ**。; ramutuy=an hi ta an=ye itak(驚いたときに言う言葉)  
ekエッ【自動詞】**来る**。話し手と聞き手のいる場所に近づく移動をする。; or ta itak kur newa inu kur okay hi kohanke(話し手と聞き手のいるところへ近づく)  
en=エン【人称接辞】[ +動詞] **私(を〜する)私(に〜する)**。; itak kur ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us(話し手に対して何かがされるという動詞の前に付く)  
hawasハワシ【自動詞】**言う、言われる、(という)話である**。; an=ye(言われる)  
koreコレ【他動詞】**〜が〜に〜を与える**。; [ nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup> + ][何か<sup>1</sup> ]が[何か<sup>2</sup> ]に[何か<sup>3</sup> ]を与える。(反sak); [ nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup> nep<sup>3</sup> + ]nep ka<sup>2</sup> nep ka<sup>3</sup> kor kuni nep ka<sup>1</sup> iki([何か<sup>2</sup> ]が[何か<sup>3</sup> ]を持つように[何か<sup>1</sup> ]する。)  
naナ【文末詞】[ 文 + ]**〜よ、〜ぞ**。; an=epakasnu, an=pawetenke hi ta iyotta osi an=ye itak(教えたり指図したりする時に最後に言われる言葉)  
nenネン【名詞】**だれ、だれか**。; nekon an kur(どんな人)  
nenonenoネノ【副詞・助詞】**そのような、〜のような**。; [ 単独で用いられて ][前で言われたことを指して] そのように。[ 名詞 + ]〜のように。; [ neno anの形で ] そのような、〜のような。; hoski no an=ye p ye kor "taa"(既に言われたことに触れながら「こう」)  
numヌム【名詞】**粒**。; pon sikarip(小さな丸いもの)  
numiヌミ【名詞】**〜の粒**。; pon sikarip(小さな丸いもの)  
pプ【形式名詞】[ 動詞・文 + ](**〜する・した)もの、(〜する・した)こと**。; hi(こと)、nep ka(何か); 【接続助詞】[口語体](〜する・した)が、(〜する・した)のに。; korka(〜する・したのに); 母音で終わる動詞句に付く形。子音で終わる動詞句に付く形は-pe。  
pekanpeベカンペ【名詞】**菱の実**。; cuk an kor wakka ka ta an=uk ipe(秋になると水の表面で取れる食べ物)  
poroポロ【自動詞】**大きい、大きくなる**。; somo pon(小さくない)、rupne(大きい、大きくなる)  
sekorセコロ【助詞】**〜と**。; [ 語・句、文 + ]〜と(言う、思う)。; yak, ari(〜と)  
siriシリ【形式名詞】[ 文 + ] 様子をみて判断して **(〜する・した)ねえ**。; ene an=nukar katu(見た様子)  
sonnoゾンノ【副詞】**本当に、とても**。; kasuy(〜すぎる)  
taタ【助詞】[ 場所名詞・位置名詞 + ]**〜に、〜で**。; oma wa(〜にあって、〜にいて)  
tanタン【形容詞】**この**。; 話し手と聞き手のいる場所(「**te**テ」や「**teor**テオロ」で指し示される場所)の中にある。(反 *taan*, *toan*); "te, teor" ta an, or ta itak kur inu kur tura an hi ta an(「ここ」にある、話し手と聞き手のいるところにある)  
tanpeタンペ【代名詞】**これ**。; 話し手と聞き手のいる場所(「**te**テ」や「**teor**テオロ」で指し示される場所)の中にあるもの。(反 *taanpe*, *toanpe*); "te, teor" ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi ta an pe(「ここ」にあるもの、話し手と聞き手のいるところにあるもの)  
tonokotanトノコタン【場所名詞】**本州**。; oro ta sisam okay poyyakotan(和人の住んでいる日本)  
ukウク【他動詞】**〜を取る、〜を採る**。; an=ani(手で取る)、an=uekarire(集める)  
waワ【助詞】[ 位置名詞・場所名詞 + ]**〜から**。; [ 普通名詞・人称接辞 or + ](**〜のところ**)**から**;(特定の表現で)〜に、〜で。; soyke ene(〜の外へ)  
waワ【接続助詞】**〜して、〜してから**。; [ 動詞 + wa anの形で ][既に〜し]ている、[〜し]てある。; kane(〜した上で)  
yakヤク【接続助詞】[ 文 + ; + 発話・認識動詞 ]**〜と(言う・思う)**; [ 文 yak pirka/wenの形で ][(〜する)といい・いけない]。  
yeイエ【他動詞】[ 文 yak + ](**〜と**)**言う、〜を言う、〜に言う**。; sekor itak(〜と言う)

# kampinuye 15 (asiknep ikasma wan): ~してくれ

カンピヌイエ アシクネバイカシマワン

|                                                                                                                           |                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| A: totto tanto pekanpe sayo kar_ruwe?<br>sonno ku=e rusuy wa.<br>トット タントペカンペサヨカンルウェ?<br>ソンノクエルスイワ                         | 母さん今日は菱の実粥つくるの。<br>食べたあい。 |
| B: aa_hawe ne ciki ku=numkar wa ku=sinki kusu en=kasuy<br>アア ハウェネチキ クヌムカラワクシンキクスエンカスイ                                     | ああ、したら殻取るの疲れたから手伝って。      |
| A: wa en=kore. tane amam ku=huraye wa ku=suwe kusne kusu<br>ワエンコレ タネアマムクウライエワ クスウェクスネクス<br>numkar nankor_na.<br>ヌムカンナンコンナ | 私、米といで炊くから、殻取ってよ。         |

## 学習の要点

### 1. wa

naは、文の最後で用いられて「文の内容を確認する(念を押す)」、「聞き手に対する親しみの念を加える」など、話し手が聞き手に対して何らかの心的な働きかけをしていることを意味するとkampinuye 14で学びました。waも類似した機能を果たす表現ですが、**意味に含まれる「話し手から聞き手への心的な働きかけ」はnaに比べて弱いものです**。そのため、日本語では「～(だ)よ」程度に訳されることが多く、naのように「～(だ)ぞ」、「～(だ)からな」のように訳されることはあまりありません。naは、話し手が主語となる文と聞き手が主語となる文のどちらにも付きますが、waは聞き手が主語となる文には通常付きません。これは、聞き手に行為を依頼したり命令したりするほど「強い心的な働きかけ」を伴う場合にはwaが用いられないことと関係があるかもしれません。

Ican or un kur ne wa. (両親は)一己(いっちゃん)というところ(出身)の人ですよ。  
ruwe ne yak an=ye wa. そういうことなのだそうですよ。  
ku=eraman (wa) an wa. 私は(それを)覚えていますよ。

また、waは目上の人に対して用いることが出来るのに対して、naは通常そのように用いられません。これも、naが「聞き手に対する(比較的強い)心的働きかけ」を、waが「聞き手に対する弱い心的働きかけ」を意味することと関係があるようです。強い心的働きかけ(特に依頼や命令など)は、目上の人に対してなされると、多くの言語・社会・文化において無礼となる危険性が生じるのです。

### 2. nankor, kusne

nankorやkusneは、**未来に実現ないしはその存在が判明する状況に言及する際に用いられます**。話し手が自ら(を含む人物)の行為について言う場合、nankorは『「自分の経験や知識から判断して」自分はそうしようと思う』こと、kusneは『自分の「性質から決まって」そうすることになっている』ことを意味します。また、話し手が自分以外の人物の行為について言う場合、nankorは『話し手が「自分の経験や知識から判断して」未来に実現あるいは判明すると思う状況』を表す場合に用いられます。それに対してkusneは『(しばしば主語で)言及される人や物自体の「性質から決まって」未来に実現あるいは判明すると話し手が思う状況』を表す場合に用いられます。このように未来の状況を確信する度合いはnankorよりもkusneを用いる場合の方が強いため、**nankorが「～しよう・するつもりだ・するだろう」**程度で訳されやすいのに対して、**kusneは「必ず～するつもりだ・きっと～することになる」**のようなニュアンスが働きやすいようです。また、nankorには話し手の主観的な判断が介入しやすいので「命令」に近い意味が表現されますが、kusneにはそのような判断の入る余地がないため、通常「命令」の意味は表現されません。寧ろ予言のような響きを持つようです。

e=hosipi nankor. (話し手が自分の経験や知識から判断して)お前は帰るんだよ。  
iki=an nankor. (話し手が自分の経験や知識から判断して)そうするからな。

an=hosippare kusne kusu....(彼らまたは話し手の性質として)(彼ら)を間違いなく返すつもりだから...。  
wen okkay e=kor kusne na. (離婚というものの性質として)必ず悪い男と再婚することになるぞ。

naが文の最後で用いられて「文の内容を確認する(念を押す)」、「聞き手に対する親しみの念を加える」など、話し手から聞き手に向けられた何らかの心的働きかけを意味することを学びました。このnaは、ここで学んだnankor、kusneと共に用いられて、未来に実現するか存在が判明する状況を「念を押して」または「聞き手に親しみの念を込めて」伝えるnankor na(普通ナンコンナと発音)やkusne na(普通クスネナと発音)のような表現をしばしば形成します。

## 今日の構文

**動詞**+ wa en=kore / **動詞**+ wa un=kore : ~してくれ・してちょうだい・して下さい

koreは、本動詞として「あげる、くれる、与える」という意味を表しますが、**動詞+ waの形に後続して「動詞の表す動作を求める命令文ないしは依頼文」を形成します**。yanを加えてen=kore yanやun=kore yanのようにすると丁寧な言い方になります。koreの複数形を用いてi=korpare ya、i=korpare yanとすると更に丁寧になりますが、多くカムイノミなどの場面で用いられるため日常生活で用いると形式ばって堅苦しく響くようです。  
・iramamakaka i=koinkar wa en=kore yan. 快く私たちを見守って下さい。  
・i=sittekka wa i=korpare yan. 許して下さいませ。

文法的にはkore (yan)の形で「(彼・彼女・彼ら)に~してやってくれ」の意味になりそうなのですが、資料を見渡す限りそのような用法は見つかりません。従って、この構文は「動詞の表す動作の利益・恩恵を受けるのが話し手(を含む人の集合)の場合に使用が限られていると理解しておくのが良いでしょう。

## 文化的背景

kampinuye 14「言葉をもう少し詳しく」で触れたとおり、pekanpe「菱の実」は秋に湖沼の水面で採取されます。茹でて皮を剥いて食べるのが普通で、処理が済んだものを胡桃と一緒に煮てそのまま食べたり、粥に入れて食べたりするそうです。保存食としても利用されたく、その場合は茹でてもせず皮も剥かずに乾燥させて貯えたようです。旭川では粥に入れて食べるのが最も一般的なようです。そのような粥を指してukoitakではpekanpe sayoと言っています。このpekanpe sayoは、iomante「熊送りの儀式」で用意されるrataskep「お供えのご馳走」の一つで、儀式の際は特に熊の油を落とすのだと言う人もいます。

## 言葉をもう少し詳しく

前の課でtan pekanpe sonno numi poro siriの中で出てきたsiri、本課でpekanpe sayo kar\_ruwe?、hawe ne cikiの形で出てきたruweとhaweは、いずれも日本語で言えば「(～する・である)こと・の」程度の意味を表すある種の名詞(日本語の形式名詞に相当)です。それぞれの違いは、「(～する・である)こと・の」という内容をどのような情報源から得られたものと捉えているかです。従って、「雨降ってるの?」と尋ねるとしても、自分も目で見ながら降っているか否かが不確かであるという場合にはruyanpe as kor an siri?、聞き手が既に雨が降っていることを確認しているかどうかを尋ねるのであればruyanpe as kor an ruwe?、聞き手が言った言葉について確認するのならruyanpe as kor an hawe?となります。このような用法は、同じ綴りのsiri「(目でみる)様子」、ruwe「跡」、hawe「声」という一般名詞の意味に由来すると考えられます(第一期の教科書のkampinuye 11「言葉をもう少し詳しく」を参照)。同様な表現に、kampinuye 25「言葉をもう少し詳しく」で学ぶhumiがあります。

## 今日の単語

amam アマム【名詞】**米、穀物**。; toyta=an wa an=kar ipe(耕して収穫される食べ物)  
cikiチキ【接続助詞】[文+](**～する・した**)なら; [+命令文](**～する・した**)から。; [iki +] iki=an hi ta(～する時に), iki=an yak(～したら)  
e エ【他動詞】**～を食べる**。(自ipe); an=paroho an=o wa an=kuykuy, an=ruki(口の中に入れて嚙んだり、飲み込んだりする)  
hawe ハウェ【形式名詞】[文+](人から聞いたことから判断して)(**～する・した**)**こと、(～する・した)**という話。; [文末詞的に用いて]**～だねえ、～なの?**; an=yep(言われたこと)  
huraye フライエ【他動詞】**～を洗う**。; toy ne yakka tur ne yakka wakka turano uska(土や汚れを水でなくす)  
kar カㇰ【他動詞】**～を作る、～をする**。; monrayke=an wa nep ka an=ante(努力して何かを現れさせる)  
kasuy カスイ【他動詞】**～を助ける、～を手伝う**。; ka opasi, kasi oyki(～を助ける)  
kore コレ【他動詞】[動詞 wa (人称接辞)+]**～に(～して)あげる、～に(～して)くれる**。; an=ki kor an=kasuy(～しながら～を助ける)  
ku= ク【人称接辞】[+動詞]**私(が～する)**、[+名詞]**私(の～)**。; itak kur iki sekor an moymoykeitak etoko us(話し手が何かするという動詞の前に付く)  
kusne クスネ【助動詞】[動詞+]**きっと～するつもりだ、～することになっている**。; [iki +] sunkesakno iki=an nankor(きっと～するつもり・だろう)  
kusu クス【接続助詞】**～なので、～だから**。; [節+][～する・した]ので、[～する・した]から。; [iki +] iki p  
nankor ナンコㇰ【助動詞】[動詞+]**～するつもりだ、～するだろう**。; kunak itak kur ramu(と話者が思う)  
numkar ヌムカㇰ【自動詞】**殻を取る**。; usa pekanpe usa an pe or wa kap uska(菱の実などから皮をなくす)  
rusuy ルスイ【助動詞】**～したい**。; [動詞句+][～し]たい、[～し]たがる。; [iki+] iki=an hi an=eramasuy(～することが好ましく思う)  
ruwe ルウェ【形式名詞】[文+](**～する・した**)の。; [文末詞的に用いられて](**～する・した**)の。; an=eraman pe(知っていること)  
sayo サヨ【名詞】**粥**。; amam wakka an=omare wa an=suwe p(米を水に入れて炊いたもの)  
sinki シンキ【自動詞】**疲れる、疲れている**。; monrayke=an kasuy wa nep ka an=eaykap(働き過ぎて何も出来ない)  
suwe スウェ【他動詞】**～を煮る、～を炊く**。; su oske ipe wakka an=omare wa suke=an(鍋に食べ物と水を入れて料理する)  
tane タネ【副詞】**今、もう、いますぐ**。; itak=an hi, nean hi ta(話している時、その時に)  
tanto タント【名詞・副詞】**今日**。; tane an to(今ある日)  
totto トット【名詞】**お母さん**。(反hanpe); unu(母), pokor menoko(子を産んだ女性)  
wa ワ【文末詞】[文+](**～する・した**)よ。; ramu hawke no an=ye hi ta iyotta osi an=ye itak(優しく言う時に最後に言われる言葉)

# kampinuye 16 (iwanpe ikasma wan): 誰が、誰を

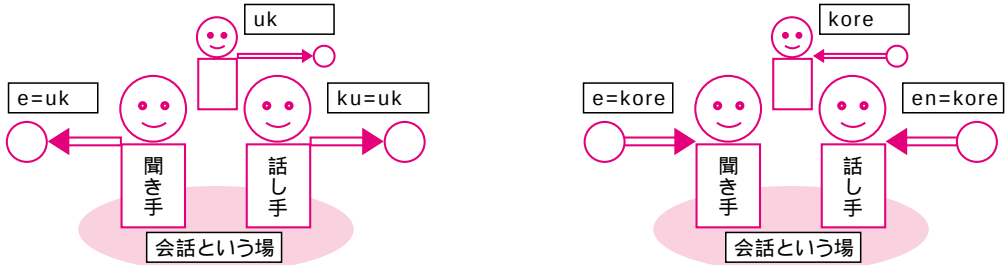
カンピヌイエ イワンペイカシマワン

A: at, taanpe ramma e=hok amam ne ka somo ne.      あっ、それふだん買う米でないね。  
アッ、タアンペランマエホゥアマムネカソモネ  
B: Petcamun ekasi en=kore. sonno kera an. erekor katu      川村のじいちゃんがくれたの。  
ペッチャムンエカシエンコレ ソンノケラアン エレコロカトゥ      すごくおいしいのさ。  
“ kamuy amam ” sekor an=rekore yak an=ye.      それで、『神の米』っていう名前なんだって。  
カムイアマムセコロアンレコレヤカイエ

## 👉 学習の要点

1. ku=, e=, en=, (es=, an=, un=)

話し手自身がする行為を表現する際は用いる動詞にku=を、聞き手の行為を表現する際には動詞の前にe=を付けて区別します。聞き手が複数の場合には、es=を用います。話し手・聞き手の両方の行為を表現する際にはan=が付きます。これら「話し手」(文法的に一人称と呼びます)と「聞き手」(文法的には二人称)はどちらも「会話」に直接参加している(会話という場の中にいる)人です。それに対して、会話に直接参加していない他の人(三人称と呼ばれます)の動作を表現する際には、用いる動詞に何も付けません。これらku=, e=, es=, an=は、伝統的なアイヌ語文法では「人称接辞」と呼ばれます。人称接辞は、会話という場に「存在する」人の行為を表す場合に「存在する」が、会話という場に「存在しない」人の行為を表す場合には「存在しない」と特徴付けることが出来ます。下の左の図では、uk「取る」という動詞を例に取って人称接辞の使い分けを図示しました。



また、e=とes=は動作を受ける人が聞き手の場合にも使われます。それに対して、話し手が動作を受ける側になる際にはku=、an=ではなくen=を用います。話し手が複数の場合(あるいは聞き手も含む場合は、en=ではなくun=が用いられます。この様子を図示したのが上の右の図です。

ku=uk 私がそれ(ら)を取る。      en=kore 彼・彼女・彼らがそれ(ら)を私にくれる。  
e=uk あなたがそれ(ら)を取る。      e=kore 彼[彼女・彼ら]がそれ(ら)をあなたにくれる。  
uk 彼[彼女・彼ら]がそれ(ら)を取る。      kore 彼[彼女・彼ら]がそれ(ら)を彼[彼女・彼ら]にくれる。  
an=uk 私たちがそれ(ら)を取る。      un=kore 彼・彼女・彼らがそれ(ら)を私たちにくれる。  
es=uk あなたたちがそれ(ら)を取る。      es=kore 彼[彼女・彼ら]がそれ(ら)をあなたたちにくれる。

尚、ku=uk、e=ukと言えば「話し手がそれを取る」、「聞き手がそれを取る」ことを表現しているのが分かるため、「私は」や「あなたは」のような代名詞的要素は通常アイヌ語では表現されません(本課の「言葉をもう少し詳しく」を参照)。また、「私があなたに[を]〜」や「私たちがあなたたちに[を]」のような場合に用いられる人称接辞は、やや複雑なのでここでは扱いません。

2. an=

話し手・聞き手の両方の行為を表現する動詞の前にはan=が付くことをすぐ上で学びました。このan=という人称接辞は、「話し手・聞き手を含む多くの人がする」という意味から転じて、「一般的に人がする行為」を表現する動詞にも用いられます。そこで、kampinuye 14でのukoitakに出て来たpekanpe an=uk、...yak an=yeはそれぞれ「(一般に人が)菱の実を採る・菱の実が採れる」、「〜と(一般的に人が)言う・〜と言われる」のような意味になります。このようなことから、an=を「一般人称」の人称接辞あるいは「受け身」の人称接辞と呼ぶことがあります(研究者の間では「4人称」の人称接辞という言い方もされるようです)

tanpe neno numi poro pekanpe an=uk yak an=ye. こういう大きい菱の実が採れるんだって(採られると人は言う)。  
“ kamuy amam ” sekor an=rekore yak an=ye. 『神の米』っていう名前なんだって(『神の米』と呼ばれると人は言う)。

## 👉 今日の構文

...sekor an=rekore/sekor rean/ene rekor katu...ne: ~と呼ばれる・名前は~だ

re(he)は「名前」という意味の語ですが、旭川方言では単独で用いられることがあまり多くないようです。主に、rekore「名付ける・呼ぶ」あるいはrekor「呼ばれる」やrean「呼ばれる」のような語の要素として働きます。それぞれ、re-kore(名前・を~に与える)、re-kor(名前・を持つ)、re-an(~の名前・ある)に分析されます。an=rekoreのan=は本課「学習の要点2」で学んだ「一般的に人がする行為」を表現する動詞に付く用法で、an=rekoreで「一般的に人が(〜と)呼ぶ」、「そう呼ばれる」という意味になります。尚、ene rekor katu...neという言い方は文語的な表現で、話し言葉では通常用いません。但し、正式な挨拶の場面で極めて厳かに名を名乗る際には、使っても良いかもしれません。

sairen sekor an=rekore.(彼は)サイレンとあだ名された。  
Toma sekor rean kotan ne.それは当麻という名前の村であった。  
ne kotan ene rekor katu Uekuruysen kotan ne.その村の名前はウエクルイセ村である。

nekon e=rean? 何という名前ですか。  
e=re nekon an? 名前は何ですか。  
Kamusokkay sekor ku=rean ruwe ne.カムソッカイという名前です。  
Itapere sekor rean kur ku=ne ru ne.イタペレという者です。  
ene an=rekor katu Rukohanke ne ruwe tapan na.手前はルコハンケと申しまする。  
ku=rehe anakne Atusakampi ne.私の名前はアトゥサカンビです。

## 📁 文化的背景

kamuy amamカムイアマムは、旭川食料株式会社から販売されている上川産米の商品名で、「コシヒカリ」、「秋田小町」、「ひとめぼれ」、「ほしのゆめ」などの種類があるようです。上川米を使った同社の商品の中でも米の「白さ」と「光沢感」が特に自慢の無洗米に付けられた名前だそうです。本講座にも協力下さっている川村カ子トアイヌ記念館館長の川村兼一さんの命名で、「穀物あるいは米」を意味するamamという語に「並外れて優れた」、「尊い」、「立派な」ものに冠されるkamuy「神の」という語が添えられています。商品の性格と与えられた名前の意味がぴったりとあった、アイヌ語の正確な使用と言えるかもしれません。(情報提供：同社小笠原総務部長)  
このように商品名にアイヌ語が用いられている例は、他にも複数見出すことが出来ます。これは、アイヌ語が日常生活で用いられる一つの姿で、このような例が増えれば増えるほどアイヌ語も生きた言葉としてその役割を取り戻す一助となり得ます。そのためにも、このような命名は正確なアイヌ語の知識(文法と語彙)に基づいてなされる必要があります。

## 🔍 言葉をもう少し詳しく

ku=oman、e=omanで「話し手が行く」、「聞き手が行く」が表現されるため、「私は」や「あなたは」という要素は通常アイヌ語では表現されないことを学びました。「私は」や「あなたは」は、代名詞kuani「私」、eani「あなた」を用いてkuani anakne、eani anakneのように言えば表現することは出来ますが、他にもない「話し手」、「聞き手」が問題となることを強く伝えたい理由がない限り、そのような表現は使われません。また、ku=やe=が付いてはじめて動詞は「話し手、聞き手の行為」を表現するため、kuani anakne omanやeani anakne omanのような言い方は出来ません。誰が行くのか分からない意味不明な文になってしまいます。

- kuani anakne oman. 私こそは彼が行く。
- eani anakne oman. お前こそは彼が行く。

このような現象は、スペイン語やイタリア語などにも見られます。これらの言語では、それぞれ一人称はvoy/vado、二人称はvas/vai、三人称は共にvaです。このように動詞の形が人称によってはっきり区別されるため、アイヌ語の場合と同様に通常は代名詞が用いられません。また、yo va、io va、tu voy、tu vadoのような表現も上で挙げたアイヌ語の例同様、誰が行くのか分からない意味不明な文になります。

|    |     | 動詞「行く」 |         | 代名詞      |       |
|----|-----|--------|---------|----------|-------|
|    |     | スペイン語  | イタリア語   | スペイン語    | イタリア語 |
| 単数 | 一人称 | voy    | vado    | yo       | io    |
|    | 二人称 | vas    | vai     | tu       | tu    |
|    | 三人称 | va     | va      | el       | lui   |
| 複数 | 一人称 | vamos  | andiamo | nosotros | noi   |
|    | 二人称 | vais   | andate  | vosotros | voi   |
|    | 三人称 | van    | vanno   | ellos    | loro  |

## 📖 今日の単語

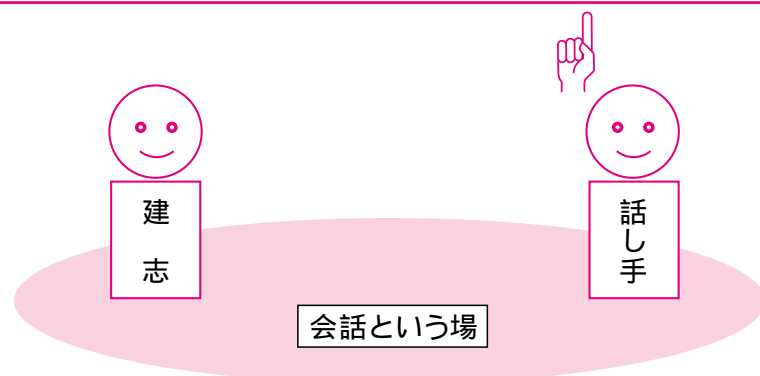
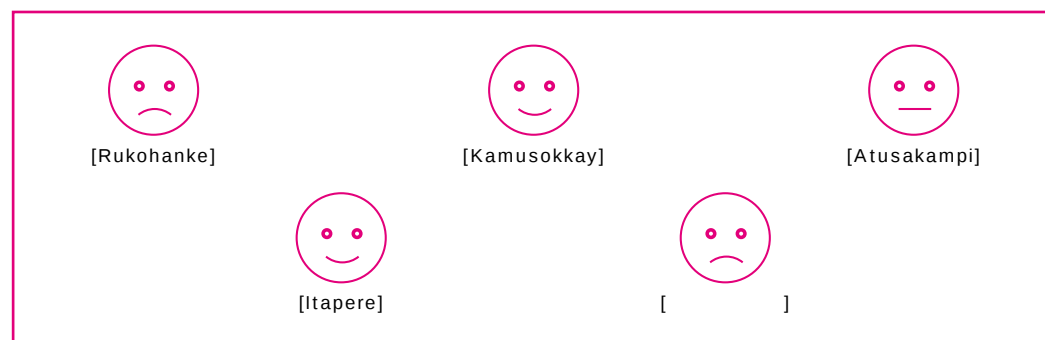
Petcamun ペッチャムン【形容詞】川村の、川端の。(<pet-sam-un川・のそば・にいる); pet sam ta an(川のそばに居る)  
e=エ【他動詞】お前(が)~する。[+名詞]お前(の)~。inu kur iki, inu kur ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us(聞き手が何かする、聞き手に対して何かがされるという動詞の前に付く)  
ekasi エカシ【名詞】おじいさん、おじいちゃん。; rupne kur, caca(年寄り、じいさん)、an=ona ona(父の父)、an=unu ona(母の父)  
erekor エレコロ【他動詞】~が理由で名づけられる、~が理由で名づけられている。; kusu ene re an(そのためそう呼ばれる)  
hokボッ【他動詞】~を買う。(反ei yok); icen an=kore wa nep ka an=uk(お金を払って~を取る)  
kaカ【副詞】~も。; [疑問代名詞+]~か。; ne yakka(~でも)、he(か)、ya(か)  
kamuyカムイ【名詞】神。; kimun kamuy熊。; 形容詞的に用いて 尊い、立派な、非常に優れた。; aynu ka somo ne utar(人間でない者たち); [+re] pase([+名詞]尊い)  
katuカトゥ【形式名詞】姿、様子。; siri(様子)  
keraケラ【名詞】味。; ipe=an hi ta parunpe ka ta ene humas humi(食べる時舌の上でする感じ)  
neネ【他動詞】~が~である、~が~になる。; [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+][何か<sup>1</sup>]が[何か<sup>2</sup>]である、[何か<sup>1</sup>]が[何か<sup>2</sup>]になる: toanpe pu ne あれは倉庫だ。; [nep<sup>1</sup> nep<sup>2</sup>+] nepka<sup>1</sup> newa nepka<sup>2</sup> sinep ne, nepka<sup>1</sup> nepka<sup>2</sup> ne yaykar([何か<sup>1</sup>何か<sup>2</sup>+]何か<sup>1</sup>と何か<sup>2</sup>は同じだ、何か<sup>1</sup>が自分を何か<sup>2</sup>にする)  
ramma ランマ【副詞】いつも。; ney ne yakka(いつも)  
rekore レコレ【他動詞】[名詞sekor+]~を(〜と)名付ける、~を(〜と)呼ぶ。; re an kuni iki=an(名前があるようにする)  
somo ソモ【副詞】[+動詞][~し]ない。; [方言ノート]他の多くの方でもsomoが用いられるが、静内や三石などではhenne, homoが用いられるらしい。; [+iki] iki hi ka isam([+そうである・そうする]そうであること・そうすることがない)  
taanpe タアンペ【代名詞】それ、あれ。話し手と聞き手のいる場所(「te テ」や「teor テオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(toanpeとの対比で)比較的近いと話し手が思うもの。(間tanpe, toanpe); "te, teor" soyke ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (toanpe akkari hankenon an pe)(「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの[taanよりも遠くにあるもの])

# kampinuye 17 (arwanpe ikasma wan): 練習問題(3)

カンピヌイエ アラワンペイカシマワン

## 復習の要点

### 1. 「～と呼ばれている」、数詞、「私を...、あなたを...」、「～(だ)ぞ、～(だ)よ」

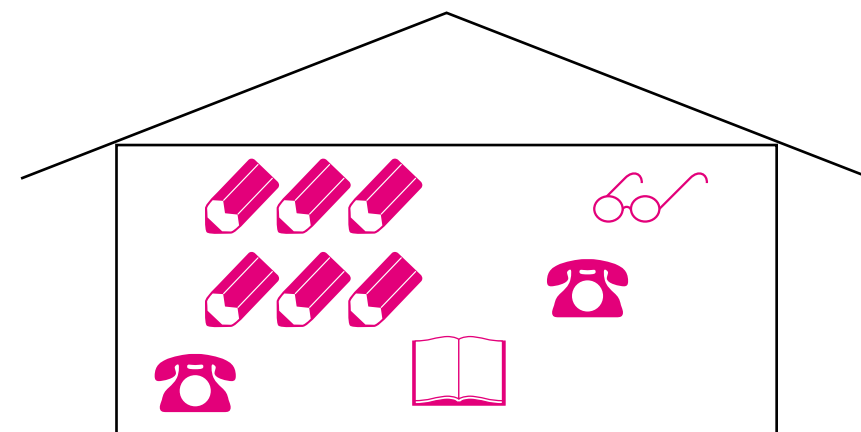


- (1) 上の四角の中の人たちは、近文にいるあなたの友達のあだ名です。聞き手は東京から遊びに来た建志君です。友達の名前を全部言ってみましょう。(16-構文)
- (例) 「この人は/彼は/彼女は、～と呼ばれています。(～sekor an=rekore.)」
- (2) 名前の分からない友達もいますね。聞き手の立場で名前を聞いてみましょう。(16-構文)
- (例) 「なんという名前ですか。(nekon e=rean?)」
- (3) 友達は何人いるか、答えてみましょう。(14-1)
- (例) 「近文には～人います。(Cikapuni ta～an.)」
- (4) 友達から下のものをもらいました。表現してみましょう。(14-1, 16-1)
- (例) 「～が、私にくれた。(～en=kore.)」、「三本の鉛筆を、私にくれた。(anenuyep rep en=kore.)」など

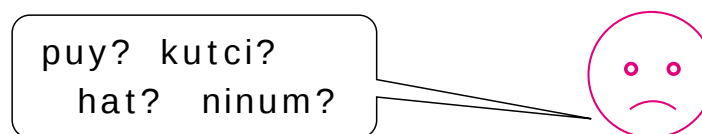


- (5) 友達が、上のものを聞き手にあげたことを伝えてみましょう。そのとき念を押す表現の“wa”も使ってみてください。(15-1, 16-1)
- (例) 「～が、あなたにくれたんですよ。(～e=kore wa.)」など

### 2. 数詞、「私は...、あなたは...」、「... (する・した) けれども・のに～」、「～してくれ・ください」「～するんだよ」



- (1) さて、近文の友達からもらったものを、ciseの中にいれようとしています。ciseの中に何があるか表現してみましょう。(3-構文, 14-1)
- (例) 「家の中(部屋)にハサミがあります。(cise oske ta etuyep an.)」
- (2) 前からciseにあったものは、実はあなたが買ってきたものです。説明してあげましょう。(16-1)
- (例) 「この～は、私が買いました。(tan～ku=hok.)」など
- (3) さて、いよいよciseの中に運ぼうとしたとき、あなたのお母さんがciseの中で、何かを探しているのに気がつきました。お母さんに聞くと、下の食べ物(kampinuye 14「文化的背景」を参照)が見当たらないそうです。お母さんの立場で言ってみましょう。(14-構文, 16-1)
- (例) 「今日、～を買ったのに、それがないんだよ。(tanto～ku=hok korka neanpe isam.)」



- (4) みんなでciseの中を探しましたが、ないので仕方ありません。買ってくるように、お母さんの立場で言ってみましょう(忘れてしまうかもしれません。念を押すいい方も使ってみましょう)。(14-2, 15-構文)
- (例) 「～を買ってきて。(～hok wa ek wa en=kore.)」、「～を買ってくるんだよ。(～e=hok na.)」

### 3. 「～するからね」、「～するよ」

「米を買う(amam hok)」、「粥をつくる(sayo kar)」、「札幌に帰る(Satporo ekota hosipi)」

- (1) 今日することを、色々表現を組み合わせ、再確認しましょう。(14-2, 16-1)
- (例) 「米を買うからね。(amam ku=hok na.)」
- (2) 今日の昼にする予定を、nankorやkusneを使って、表現してみましょう。(15-2, 16-1)
- (例) 「米を買うよ。(amam ku=hok nankor/kusne.)」

kampinuye 18 (tupesanpe ikasma wan): ～として

カンピヌイエ トゥベサンペイカシマワン

|                                                                                                                                                                 |                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| A: pewre nispa utar, nep ka imoka ne hok yan.<br>ペウレニシパウタラ ネツカイモカネ ホッヤン                                                                                         | お兄さん方、何かお土産に買ってって下さい。                    |
| B: hemanta pirka...?<br>ヘマンタ ピリカ？                                                                                                                               | 何がいいかな...？                               |
| C: Asankar or_ta asur as pe RAAMEN ne korkay<br>アサンカラオッタ アスラッペ ラーメンネコロカイ<br>tan YUUKARAORI kay pirka. pirka yakkay ataye yupke.<br>タンユーカラオリカイピリカ ピリカヤツカイアタイエユッケ | 旭川で有名なのはラーメンだけど、この<br>優佳良織もいいな。いいとは言え高い。 |
| B: ataye hawke hike pirka sekor ku=yaynu.<br>アタイエハウケヒケピリカセコロクヤイス                                                                                                | 安いのがいいと思う。                               |

👉 学習の要点

1. yan
- naとwaは、共に「話し手から聞き手への心的な働きかけ」を表現する働きをするものの、関与する「心的働きかけの強さ」という点で異なることを既に学びました。同様な「働きの類似性」と「心的働きかけの強さの違い」がya( 第一期kampinuye 3「学習の要点3」で既習 )とyanの間にも見られます。**yanが含意する「話し手から聞き手への心的な働きかけ」は、waの場合のように比較的弱いため丁寧な依頼の表現を形成します。**それに対して、yaは含意する「話し手から聞き手への心的な働きかけ」がやや強いため、yanに比べて「より親しみを込めた」けれどもその分「よりぶっきらぼうな」依頼を表現します。

yaytupareno hosippa yan. さようなら ( 気をつけてお帰り下さい ) 。  
yaytupareno hosipi ya. じゃあね ( 気をつけてね ) 。  
pirkano okay yan. さようなら ( 元気でいて下さい ) 。  
pirkano okay ya. じゃあね ( 元気でね ) 。

yaは、文の最後で用いられて「聞き手に親しみを込めて依頼・命令をする」または「聞き手に答えを求める」のような比較的積極的な心的働きかけを話し手がしていることを意味するのは既に学んだとおりです。それに対して、yanも類似した機能を果たす表現ですが、**含意される「話し手から聞き手への心的な働きかけ」はyaに比べて弱いものです。**そのため、「聞き手に対する丁寧な依頼・提案」を意味しますが、命令をしたり答えを求めたりといった積極的働きかけを表現することは出来ません。  
また、依頼を表現する場合、yanは目上の人に対して用いることが出来るのに対して、yaは通常用いられません。これも、yaが「聞き手に対する( 比較的強い ) 心的働きかけ」を、yanが「聞き手に対する弱い心的働きかけ」を意味することと関係が深いようです。waについて学んだ際にも触れたとおり、比較的強い心的働きかけは目上の人に対してなされると、多くの言語・社会・文化において無礼となる危険性が生じるためです。

2. ne
- neは、**主語または目的語の指示対象と同一視される存在を表現するのに用いられ、大抵「～として・～に」と訳されます。**以下の例では、「米120俵」を「年貢」と、「彼ら自身」を「人間」と、「話し手の妹」を「償いの品」と見なしていることを表します。

umma ka so ataye ne sisam uk. 馬も借金のかたに和人が奪った。  
amam ka atuyta tu hot sisam ekota toy atay ne an=korara. 米も120俵を和人に年貢として差し出した。  
e=kor sapo katu kar wa aynu ne okay. ( 彼らは ) お前の姉を欺いて人間として暮らしている。  
an=kor turesi asinpe ne an=asinke na. 私の妹を償いとして差し出します。

中には、次の例のように～neの指示対象と同一視されるものが目的語としては表現されない場合もあるので注意が必要です。このような用法は、日本語の『辞書を枕に昼寝をする』、『寿司を土産に帰ってくる』に見られる『～に』に似ています。

kam ku=se wa imoka ne ku=hosipi. 私は肉を背負って、( それを ) 土産に帰った。

👉 今日の構文

～sekor/yak/kuni/kunak/ya(k)ka/hi (ka) +**発話・思考動詞**: ～( する・した ) と言う・思う  
sekor/yak/kuni/kunak/ya(k)ka/hi (ka)は、発話・思考内容を導いて、「～( する・した ) と」、「～( する・した ) かどうか」、「～( する・した ) こと」といった意味を表現します。これらの表現は、どのような動詞と一緒に用いられるかがある程度決まっています。それに応じて、用いられる語法が決まっているようです。sekorは人の言ったことばをそのまま引用する( 直接語法と呼ばれます ) で用いられることが圧倒的に多いのに対して、それ以外は人の言ったことを話し手が自分の言葉に直して表現するの( 間接語法と呼ばれます ) にもっぱら用いられます。

|          | sekor               | yak   | kuni/kunak       | ya(k)ka/hi (ka)                                                            |
|----------|---------------------|-------|------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 共に使われる動詞 | itak 話す<br>yaynu 思う | ye 言う | ye 言う<br>ramu 思う | eraman 分かる<br>eramuskare 分からない( 見聞きしたことがない )<br>erampetek 分からない( 見当が付かない ) |
| 話法の種類    | 直接語法                | 間接語法  |                  |                                                                            |
| 内容の種類    | 発話内容・思考内容           |       |                  | 思考内容                                                                       |

発話内容は、同時に思考内容でもあります。思考内容は言葉で表現されなければ発話内容とはならないことに注意してください。sekor/yak/kuni/kunakは発話内容と思考内容のどちらも表現することが出来ますが、ya(k)ka/hi (ka)は思考内容を表現することしか出来ません。

taan kur ku=kor turesi ku=kore sekor itak. 「あの人に妹を嫁にやる」と( 彼は ) 言った。  
taan kur ku=kor turesi ku=kore sekor yaynu. 「あの人に妹を嫁にやろう」と( 彼は ) 思った。  
nean kur kor turesi kore yak ye. その人に自分の妹を嫁にやると( 彼は ) 言った。  
nean kur kor turesi kore kuni ye. その人に自分の妹を嫁にやろうと( 彼は ) 言った。  
nean kur kor turesi kore kuni ramu. その人に自分の妹を嫁にやろうと( 彼は ) 思った。  
nean kur kor turesi kore kunak ye. その人に自分の妹を嫁にやろうと( 彼は ) 言った。  
nean kur kor turesi kore kunak ramu. その人に自分の妹を嫁にやろうと( 彼は ) 思った。  
nekon an kur kor turesi kore kuni p ne yakka eramuskare. どんな人に娘を嫁にやるべきか( 彼は ) 分からない。  
nekon an kur kor turesi kore kuni p ne yakka erampetek. どんな人に娘を嫁にやるべきか( 彼は ) 分からない。

📁 文化的背景

アイヌ語は大きく分けて北海道、サハリン( 樺太 )、北クリル( 北千島 ) の三つの方言圏に分類されます。これらは、発音・語彙・文法など多くの面で有意義に異なっており、互いの意思疎通も困難であった可能性があります。北海道方言は、大きく南西方言と北東方言に大別されます。南西方言には西から八雲・幌別( 登別 )・白老・千歳・鶴川・沙流・静内あたりまでが該当し、北東方言は静内から東の三石・浦河・様似・十勝・白糠・釧路・根室・北見、北へ向かって旭川・名寄・紋別・宗谷を含みます。尚、南千島( 南クリル ) は根室方言に属すると言われています。  
北海道北東方言でも、最後に挙げた四方言( 旭川・名寄・紋別・宗谷 ) は更に一つのまとまりをなすようで程度の差こそあれ、それ以外の地域と比べて似通っているようです。これら四方言の位置する地域は、江戸期に「西蝦夷」と呼ばれ、それ以外の地域を指す「東蝦夷」とは和人との接触の程度に差があったようです。  
尚、北海道南西方言と北東方言は、ユーカラなどの文語的な表現は別として、日常的に用いられる口語的表現という点では少なからず異なっていたようです。それを証拠に、旭川方言のテキストを沙流方言の辞書で読もうとすると困難を来とし、またその逆もしかりなのです。二つの方言はイタリア語とスペイン語くらいの違いはあるかもしれませんが。ですから、旭川方言の話者と沙流方言の話者が口語体で会話をしたら、意思疎通に不都合を生じることは十分考えられます。その様子がukoitak 4 では描き出されています。

🔍 言葉をもう少し詳しく

asur as「有名である」は、asur「噂・評判・知らせ」とas「立つ」からなっています。『噂が立つ』と日本語で言うのと「悪い噂」を意味しますが、アイヌ語のasur asは良い意味で(pirka asur as)も悪い意味で(wen asur as)も用いるようです。また、asするものには、asurの他にruyanpe「雨」、upas「雪」、rera「風」、haw(e)「声」、hum(i)「音」などがあります。これらは、皆「空中を渡って来るもの」と見なすことが出来ることから、ここでのasは単に「立つ」というよりは「空中を渡って来る」というような意味を持っているのかもしれません。  
その一方で、日本語でも『噂が立つ』に加えて『風立ちぬ』、『夕立ち』などとも言います。古典語では『堀江漕ぐ伊豆手の船の梶つくめ音しば立ちぬ水脈速水みかも( 万葉集4460 )』のような表現も容易に見出されます。これらを考え合わせると、日本語とアイヌ語の発想に類似性を見たくもなります。詳細は、今後の研究に期待したいところです。

📖 今日の単語

Asankar アサンカラ【地名】旭川。; Cikapuni( 旭川 )、peniunkur kotan( 川上の人々の町・村 )  
as アッ【自動詞】立つ、[ 雨・雪 ] が降る、[ 風 ] が吹く、[ 噂 ] となる。; rikin( 高くなる )、an( 現れる )  
asur アスル【名詞】噂、評判、知らせ。; iweyyekar( 人の悪口を言う言葉 )、iotuwasi( 人を褒める言葉 )、sonko( 知らせ )  
ataye アタイエ【名詞】値段、税。; nep ka an=hok kusu an=kore icen( 何かを買うのに払うお金 )  
hawke ハウケ【自動詞】弱い、静かな、穏やかな。; ataye～安い。; somo yupke( 強くない )、ratcitara an( 穏やかだ )、hawe sak( 何も言わない )、humi sak( 音がしない )  
hemanta ヘマンタ【代名詞】( 沙流・鶴川・千歳方言 ) 何、何か。旭川方言のnepに相当。  
hike ヒケ【接続助詞】[ 動詞 + ] ( ～な ) ほう。; -p(e)( ～な ) もの  
imoka イモカ【名詞】土産。; anun kor cise ene oman=an hi ta an=koroman pe( よその人の家に行くとき持って行くもの )  
kay カイ【副詞】( 釧路・白糠方言 ) ～も。; [ 疑問代名詞 + ] ～か。  
korkay コロカイ【接続助詞】( 釧路・白糠方言 ) ( ～する・した ) けれども。; ( Kusuri un kur Sirarka un kur iporse ) korka( ～する・した ) けれども  
nep ネプ【他動詞】何、何か。通常は人間以外のものの素性を問う表現だが、時にnep ka「何か・何も」と同様の意味で用いられる: nep an=e rusuy nep an=kor rusuy pe isam 食べたい、欲しいものは何もない。; nekon an pe( どのようなもの )  
nispa ニッパ【他動詞】紳士、旦那。( 反katkemat ) icen poronno kor aynu( お金持ちの男の人 )、pase kur( 立派な人 )  
orオロ【位置名詞】ところ。; [ 名詞・人称接辞 + ] ( ～の ) ところ。; hi( ところ )  
pe ペ【形式名詞】[ 動詞・文 + ] ( ～する・した ) もの、( ～する・した ) こと。; hi( こと )、nep ka( 何か ) ; [ 接続助詞 ] 《口語体》( ～する・した ) が、( ～する・した ) のに。; korka( ～する・したのに ) ; 子音で終わる動詞句に付く形。母音で終わる動詞句に付く形は-p。  
pewre ペウレ【自動詞】若い。; somo onne wa an( 年を取っていない )  
pirka ビツカ【自動詞】良い。; 良い、綺麗である。元気である。; an=eramasuy( 好ましい )  
utar ウタッ【名詞】仲間、同族、～たち。; [ 単独で時にutariの形で ] 仲間、同族。[ 名詞 + ] ～たち。; sine sinrit kor pe( 同じ先祖を持つ者 )  
yakkay ヤツカイ【接続助詞】( 釧路・白糠方言 ) ( ～する・した ) としても、( ～する・した ) とはいえ。; ( Kusuri un kur Sirarka un kur iporse ) yakka( ～する・した ) けれども  
yan ヤン【文末詞】[ 文 + ] ～して下さい。; nep ka ki wa en=kore sekor itaka=an hi ta iyotta osi an=ye itak( ～して下さいと言う時に最後にいう言葉 )  
yupke ユッケ【自動詞】強い、激しい。; ataye～( 値段が ) 高い。; somo hawke( 弱くない )、ruy( 激しい )  
YUUKARAORI ユーカラオリ【名詞】優佳良織。木内綾氏考案の織物で、北海道観光の土産物として有名になった。アイヌの伝統文化に配慮してユーカラを優佳良と変えた。; imoka ne an=hok anoskep( 土産に買われる織物 )

## kampinuye 19 (sinepesanpe ikasma wan): 一人がする、大勢がする

カンピヌイエ シネペサンペイカシマワン

|                                                                                                                   |                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| A: ney wa es=arki?<br>ネイワエサㇰキ?                                                                                    | どこからきたの。                     |
| B: kani anakne Sisirmuka wa k=ek<br>カニアナㇰネ シシリムカワケㇰ                                                               | 僕は沙流から来ました。                  |
| C: kuani anakne Kusuri wa ku=ek.<br>クアニアナㇰネ クスリワクエㇰ                                                               | 私は釧路から来ました。                  |
| A: tuyma_wa no es=arki hawe. eposon es=ye iporse<br>トゥイマノエサㇰキハウエ エポソンエシイエイポッセ<br>ueoyakno an ru ne.<br>ウエオヤㇰノアンルネ | 遠くから来たんだね。道理で言葉遣いが<br>違うわけね。 |

### 学習の要点

1. ek/arki, oman/paye (, a/rok, as/roski, rayke/ronnu)

第一期の教科書のkampinuye 3「今日の構文」で、「ある・いる」といった存在の意味を表現するのにanとokayが使われることを学びました。通例、単数の主語に対してはan、複数の主語に対してはokayが用いられます。**同様な単数・複数の区別がなされる動詞に、ek/arki「来る」、oman/paye「行く」、a/rok「座る」、as/rosk「立つ」、rayke/ronnu「殺す」などがあります(いずれの組も単数/複数の順)。**

Uryu or wa menoko ek. 雨竜から女性が来た。  
Uryu or wa menoko poronno arki. 雨竜から女性がたくさん来た。  
Uryu or wa menoko patek poronno ek. 雨竜から女性ばかりたくさん来た。

注意したいのは、poronnoなどが用いられるなどして主語が「複数」である場合でも、patekが用いられるとarkiではなくekとなる点です。上のUryu or wa menoko patek poronno ek.を例に取れば、指示対象が「女性という類」に絞り込まれるため単数扱いとなるようです。

2. eposo(u)n (kusu), orowaciki

**eposoun、eposon**あるいはそれらにkusuのついた**esonun kusu、epson kusu**は、**人の話を聞いたり自分の考えや記憶を整理して、ある内容あるいは帰結に改めて納得したという感情を表現するのに用いられます**。「道理で」、「なるほど」、「どうやら」などと訳されることが多いようです。**orowaciki**も同じように使われる表現ですが、オイナやユーカラなどの文語体で用いられています。他の方言では、eposokaneやoroyacikiなどの形が見られます。

(自分の子供が大きくなったことを自ら語った後)eposon ku=onne.どおりで年取るわけだ。  
eposoun kusu asuru as pe tap siretok kor\_ruwe.なるほど評判通りの美しさをもっているな。  
orowaciki aynu ene an ne kunak an=ramu どうやら人間らしいと私は思った。

これらの表現は、話し手が知識・認識として獲得して(心に残って)いる内容に言及するものなので、sirやhaweよりもruweで結ばれやすいようです。

### 今日の構文

**文**+hawe/**文**+haw an: ~**んだねえ、~んだなあ、~んだね**

haw(e)は、普通名詞として「声」という意味を持つ語ですが、**文に後続して「人から聞いた話に対する感嘆の気持ち」を表現するのにも用いられます**。普通、「~んだね(え)」、「~んだな(あ)」などと訳されます。ukoitakでは~haweの形が用いられていますが、旭川方言の資料ではhaw an、hawan(二語で綴るか一語で綴るかは決まっていません)の形が圧倒的に多いようで、haweのみで文が結ばれることは稀なようです。

an=wen-po an=tu-poho e=asin \_hawan悪い子、至らない子、お前は外へ出たんだね。  
nep ta katkiko wentarap \_haw an. なんとも不思議な夢だなあ。

### 文化的背景

旭川・名寄・北見・釧路などの北海道北東方言でkuani「私」、ku=ek「私は来た」と言うところを、沙流・鶴川・千歳など一部の南西方言では口語体でkani、k=ekのように言います。これは、u-aやu-eといった母音連鎖に縮約が働いている例で、これら一部の南西方言の一大特徴となっています。この縮約は、北東方言を話す人たちにとっては耳慣れないもので、奇異に聞こえるばかりか時には理解が困難にすらなるそうです。

一方、ユーカラなどで用いられる文語体では、沙流・鶴川・千歳などの方言でも母音連鎖の縮約は起こりにくいそうです。けれども、文語体では一人称単数に対してもan=が用いられ、ku=という人称接辞はあまり用いられないので、kuaniやku=ekという形はやはり極めて用いられにくいということになります。尚、kuaniはku-ani-hi(私・いる・こと)に由来するそうです。

### 言葉をもう少し詳しく

本課の「学習の要点2」で、poronnoなどが用いられるなどして主語が「複数」である場合でもarkiではなくekとなる場合があることを学びました。poronno を使って「たくさん存在する」ことを意味する際には、poronno anという言い方とporonno okayという言い方の二つがあります。これらの用法を資料で調べますと、poronno anの主語に立つのはciep「食べ物」、anep「食べ物」、aman「米」、tonoto「酒」のように「数えられないものを指す名詞(専門的には不加算名詞あるいは物質名詞などと呼ばれます)」に限定されます。それに対して、poronno okayの主語にはaynu「人・男」、menoko「女」、ussiw「召使」、pakusa「手下」のように人間に限られます。このことから、同じ「たくさん・多く」でも、「食物」、「無生物」、「不加算」にはporonno anが、「人間」、「生物」、「加算」にはporonno okayが用いられるという傾向がうかがわれます。更に多くの例を調べてみなければはっきりとしたことは言えませんが、これらの例を参照する限りporonno anとporonn okayの使い分けは、英語のmuchとmanyの使い分けと相通ずるものがあるように見えます。

因みに、「数えられるもの(加算)」と「数えられないもの(不加算)」の違いは、部分を取り出してみて、その部分が元の全体と同じものとして見られるかどうかに基づくことが知られています。「食べ物」、「米」、「酒」は、一部を取り出して、それらの部分は元の全体と同じく「食べ物」、「米」、「酒」と見なすことが出来ます。それとは対照的に、「人」の身体の一部を取り出して、それを元の全体と同じ「人」であるとは言えません。例えば、ある人の「髪の毛」や「爪」を切ったとして、それら髪の毛や爪を「人」とは見なせません。

### 今日の単語

anアン【自動詞】**ある、いる、暮らす、あらわれる**。(反*isam*; 複*okay*); katu kor, tum kor( 姿がを持つ、体を持つ )

anakneアナㇰネ【副詞】( 話題・対照となる要素を取り立てて ) ~**は**。; sine itak an=numke hi ta nean itak osi ek itak( 一言選び出すときその後に来る言葉 )

arkiアㇰキ【自動詞】[ 複数の人・物が ] **来る**。(複*ek*); or ta itak kur newa inu kur okay hi kohanke( 話し手と聞き手のいるところへ近づく )

eposonエポソン【副詞】→ eposoun

eposounエポソウン【副詞】**道理で、なるほど、どうやら**。; eposoun kusu道理で、なるほど。; pirkano an=eraman hi ta an=ye itak( 良く分かった時に言う言葉 )

es=エㇰ【人称接辞】[ +動詞 ] **お前たち( が ~ する )**。; [ 単数の聞き手に対して用いて ] **あなた( が ~ する )**。; [ +名詞 ] **お前たち( の ~ )**。; [ 単数の聞き手に対して用いて ] **あなた( の ~ )**。; inu kur utar iki, inu kur utar ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us( 聞き手が何かする、聞き手に対して何かがされるという動詞の前に付く )

iporseイポッセ【名詞】**言い回し、表現、方言**。; ene itak=an katu( 言い方 )

k=ㇰ【人称接辞】( **沙流・鶴川・千歳方言** ) [ +動詞 ] **私( が ~ する )** 旭川のku=に相当。; [ +名詞 ] **私( の ~ )**。旭川のku=に相当。

kaniカニ【代名詞】( **沙流・鶴川・千歳方言** ) **私**。旭川方言では、kuani。

kuaniクアニ【代名詞】**私**。; itak kur ene yayrekore katu( 話者が自分を呼ぶ時の呼び方 )

kusuriクスリ【地名】**釧路、釧路川筋**。; yaunmosir ka ta epera an poro kotan( 北海道の東にある大きな町 )

neyネイ【代名詞】**どこ、どこか**。; [ ney pakno で ] いつも、いつまでも。; nekon an hi( どんな場所・時 )

noノ【副詞語尾】[ 自動詞 + ] ( 副詞化する。 ) ~ **に、~く、~て**。; [ 副詞・助詞 ] 口調を整える。; ; ruwe ne kor( ~ であり )

ruル【形式名詞】[ 文 + ] ( 知識から導かれた判断をさして ) ( ~ する・した ) こと・の。( 関*haw(e)*, *hum(i)*, *sir(i)* ); [ 文末詞的に用いられて ] ( **~ する・した** ) の。; an=eraman pe( 知っていること )

Sisirmukaシシリムカ【地名】**沙流川筋**。; Sar kotan( 沙流川流域の集落のあるところ ), yayunmosir ka ta ekusun an( 北海道の南にある )

tuymaトゥイマ【自動詞】**遠い**。; 【名詞】**遠く**。(反*hanke*); toanhi ta an( ずっと遠くにある )

ueoyaknoウエオヤㇰノ【副詞】**互いに異なって、互いに違って**。(反*uneno*); uneno an ka somo ki no( 互いに同じではなく )

## kampinuye 20 (hot): ～するもの・～したもの

カンピヌイエ ホッ

|                                                                                                                         |                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| B: ku=mici ku=kor hapo or_un ku=hok wa k=arpa kusne<br>クミチ クコロハポ オルン クホクワカラバクスネ<br>korka hemanta pirka?<br>コロカ ヘマンタピリカ? | 父さんと母さんに買って行くんだけど、<br>何がいいですかね。 |
| A: nep e=ye p ne_yakka ku=erampetek.<br>ネプエイェナツカ クエラムベテッ                                                                | 何て言ったのか分からない。                   |
| C: onaha unuhu or ene imoka ne hok wa oman rusuy sekor.<br>オナハ ウヌフ オレネ イモカネホクワ オマンルスイセコロ                                | 両親の所へ土産に買って行きたいんだって。            |
| A: ene itak kor an hawe?<br>エネイタツコランアウエ?                                                                                | そう言ったの。                         |



### 学習の要点

- p(e):(～する・した)もの、(～する・した)こと、(～する・した)の  
-p、-peは動詞(句)または文に後続して名詞句(主語や目的語になれる表現)を形成して、「(～する・した)もの・こと・の」のように訳されます。**-pは母音で終わる語の後ろに付き、-peは子音で終わる後ろに付きます。主語や目的語が表現されていない動詞(句)または文に-p(e)が付くと、～p(e)全体が指すものは、動詞の意味上の主語や目的語に対応します。**anep「食べ物」、anmip「着物」、asinpe「安い品」、tanpe「これ」、sinep「一つ」、pirkap「良いもの」、nep「何」はその例で、それぞれan-e-p(私たち・食べる・もの)、an-mi-p(私たち・着る・もの)、asin-pe(出る・もの)、tan-pe(この・もの)、sine-p(一つの・もの)、pirka-p(良い・もの)、ne-p(どの・もの)に分解され、～p(e)全体は含まれる動詞の意味上の主語または目的語に当たります。次の例のpaye p、okay pe、an=ye pも同様に主語または目的語が表現されていないため、形成される名詞句全体でpaye「行く」の主語に当たるもの(例えば「行った者たち」、okay「行く」の主語に当たるもの(例えば「住んでいる者」、ye「言う」の目的語に当たるものを(例えば「私の言った言葉」)を指します。

hoski paye p anakne....最初に行った者は...。  
okay pe utar....住んでいるものたちは...。  
an=\_ye p nu ki wa i=korpare yan.私が言うこと聞いて下さい。

一方、主語や目的語が表現されている文に-p(e)が付くと、その結果形成される名詞句全体が意味する出来事ないしは状態自体を指して、「(する・した)の」のように訳されます。

ear iruska p ne wa....(彼は)腹を立てたのであって...。  
iruska p ne kusu....(彼は)腹を立てたものだから...。  
tanpe neno an ikonnot ney ta ka isam pe ne ya....これと同じようなお守りがどこかにないものか...。

また、次のように主語や目的語が表現されている文に-p(e)が付き、全体として副詞句として働く場合がある。「単純接続」ないしは軽い「譲歩」を意味し、「～のだが」、「～のに」ぐらいの訳が与えられます。korkaよりも口語的な表現です。

irukay hotke=an rok pe....しばらく私は横になったのだが...。  
ku=ray yakne ukor wa pirka uekatayratkino okay yak pirka p nep kusu ku=siknu.  
私が死んで他の人と結婚して円満に暮らしたいのに、どうして死なないの。

- ya ka, yakka  
kampinuye 18の「今日の構文」でya kaあるいはyakkaは文に後続してeraman「分かる」、eramuskare「分からない(見聞きしたことがない)」、erampetek「分からない(見当が付かない)」の目的語として使われることを学びました。**ya kaやyakkaに先行する文は典型的には疑問詞を含み、「(何を・どのように・どこで...する・した)か」といった意味を表現します。**それに対してya ka、yakkaに先行する文が**疑問詞を含まない場合は、「(～する・した)かどうか」のような意味を表します。**

yaは直接疑問文を表現するのにも用いられる要素(第一期の教科書のkampinuye 3「学習の要点3」を参照)、kaは不定であること(「何か」などの「か」)を意味する要素(第一期の教科書のkampinuye 3「学習の要点1」を参照)。尚、yakkaはyaとkaの間にkの挿入音が入ったものです。ya kaは主にペニウンクル(上川地方出身者)が用いるのに対して、yakkaはパニウンクル(空知地方出身者)が用いるという傾向があるようです。このことから、これら二つの表現の違いはおおむね方言差によるものかもしれません。



### 今日の構文

**動詞句...+kor+動詞句～:...(し)ながら・つつ～する(、...(し)て～する)**  
**動詞句を結ぶkorは前の動詞句の意味する出来事が済む前に後の動詞句の意味する出来事が生じるという関係を表す働きをします。**しばしば前の動詞句の意味する出来事の継続中に後の動詞句の意味する出来事が生じることから、「～(し)ながら・つつ」と訳される**ことが多いですが**、ruwe ne kor「～(する・した)のであって」に代表されるように、単に「～(し)て」と訳される場合も少なくありません。

pirka kenas an ruwe ne kor....綺麗な森があって...。

第一期教科書のkampinuye 5、今日の構文で既に学んだとおり、korの代わりにwaを使うと前の動詞句の意味する出来事が済んだ後に後の動詞句の意味する出来事が生じることを表します。

ipe kor ukoitak(彼らは)食事をしながら話をした。  
ipe wa ukoitak(彼らは)食事をしてから話をした。

「存在」を意味するan(またはokay)がkorやwaに後続する場合は、それぞれ「～している(ところだ)」、「(既に)～して(しまって)いる」を意味します。このような場合、しばしばan(またはokay)が持つ「存在」の意味は薄れ、それぞれkorとan、waとanがひとまとまりとなつて、**動詞+kor an、動詞+wa anが言わば「進行形」や「完了形」のような形式として機能します。**次の文を例に取れば、「来る」という動作がek kor anでは済んでおらず、ek wa anでは済んでいる点の違いです。

huci ek kor an na.おばあちゃんが来るところだよ。(Grandma is coming.:進行形)  
huci ek wa an na.おばあちゃんが来ているよ。(Grandma has come.:完了形)



### 文化的背景

kampinuye 19の「文化的背景」で、旭川・名寄・北見・釧路などの北海道北東方言でkuani「私」、ku=ek「私は来た」と言うところを、沙流・鶴川・千歳など一部の南西方言では口語体でkani、k=ekのように母音連鎖の縮約が起こりやすいことを学びました。このような方言的差異は、音声的な特徴だけでなく語彙(単語や表現の体系)にも生じます。とりわけ基礎的な語彙、日常的な使用の頻度が高い言葉に強くあらわれます。以下の表は、井筒勝信編『アイヌ語旭川方言辞典草案』と中川裕先生の『アイヌ語千歳方言辞典』、田村すず子先生の『アイヌ語沙流方言辞典』を元に「両親」の呼称を略式の言葉遣い(口語体)と正式な言葉遣い(文語体)の区別に従って整理したものです。これらおおむね南北に隣り合った方言同士でも、口語体での父母呼び方は著しく異なるようです。このような差異は、既に見た母音の縮約と同様、異なる方言を話す人たちにとっては耳慣れないもので、奇異に聞こえたり時には理解が困難になることもあると言われています。

|      |       | 口語体(略式) |       | 文語体(正式) |     |
|------|-------|---------|-------|---------|-----|
|      |       | お父さん    | お母さん  | 父       | 母   |
| 旭川方言 |       | hanpe   | totto | ona     | unu |
| 沙流方言 | 中・上流域 | mici    | hapo  | ona     | unu |
|      | 下流域   | iyapo   | hapo  | ona     | unu |
| 千歳方言 |       | hapo    | totto | ona     | unu |

それに対して、文語体での言い方はこの表からも読み取れるように、方言的差異が小さいことが知られています。従って、ユーカラなどに代表される格調高い言い回し(ここで言う文語体)こそが異なる方言を超えて通じる「標準語」(あるいはもっと正確には共通語)としての性質・機能を持っていることが分かります。



### 言葉をもう少し詳しく

「今日の構文」では、**動詞+kor an、動詞+wa an**がそれぞれ言わば「進行形」や「完了形」にあたることを学びました。日本語(の共通語)でこれらに相当する表現は、いずれも『～している』です。例えば、『彼はその本を読んでいる』と言うと「今読んでいる最中」という解釈と「既に読んでいる」の解釈の両方がありえます(もちろん、後者の読みは『既に』のような表現があったほうが更にはっきりします)。アイヌ語では二つの形式を使い分けなければ正確な意味は伝えられませんから、この点で日本語は対照的に見えるかもしれません。けれども、日本語にもこれらと同様な二つの形式を区別する方言が少なからずあるそうです。瀬戸内海沿岸の一部の地域で用いられる「～しよる」と「～しとる」には、丁度アイヌ語の**動詞+kor an、動詞+wa an**に対応する区別があるようです。『彼はその本を読みよる』と『彼はその本を読んだる』は、意味が異なることが知られています。後者では本を読み終わっているのに対して、前者では読んでいる最中と解釈されるそうです。



### 今日の単語

arpaアラバ【自動詞】(沙流・鶴川・千歳方言)(単数の人・ものが)行く。旭川方言ではoman。(複paye);(Sar un kur Sikot un kur iporse) oman eneエネ【副詞】こう、そう、ああ。;(自分の思い描いていることを指して)こう、そう、ああ。;[ene anの形で]こんな、そんな、あんな。;an=eramu p neno an(考えているような)  
eneエネ【助詞】[位置名詞・場所名詞+ ]～へ。;ekota(～へ向かって)  
erampetekエラムベテッ【他動詞】【他動詞】～が分からない、～を理解できない。(反eraman;類eramuskare);somo an=eraman(分からない)  
hapoハポ【名詞】(沙流方言)お母さん。;(千歳方言)お父さん。;(Sar un kur iporse) totto, (Sikot un kur iporse) hanpe itakイタク【自動詞】話す、語る。;nep ka ye(何か言う);【名詞】言葉、話。;an=ye p(言われたこと)  
korコロ【接続助詞】[文・動詞+ ](～し)ながら・つつ。;[動詞kor an/okayの形で ]～している(最中である)。 (反動wa an)  
miciミチ【名詞】(沙流川中・上流方言)お父さん。;(Sisirmuka peni un kur iporse) hanpe omanオマン【自動詞】(単数の人・ものが)行く。話し手と聞き手のいる場所から遠ざかる移動をする。(複paye);or ta itak kur newa inu kur okay hi wa no tuyma(話し手と聞き手のいるところから遠くなる)  
onahaオナハ【名詞】《文語体》～の父。;hanpe(お父さん)  
unウン【助詞】(沙流・鶴川・千歳方言)～へ。旭川ではene。;(Sar un kur Sikot un kur iporse) ene unuhuウヌフ【名詞】《文語体》～の母。;totto(お母さん)  
yakkaヤツカ【接続助詞】< ya ka[文+ ][+erampetek/eraman](～する・した)か、(～する・した)かどうか(分からない・分かん)。;[iki + ]iki=an he somo iki=an he(するのかしないのか)

## kampinuye 21 (sinep ikasma hot): 練習問題(4)

カンピヌイエ シネナイカシマホッ

### 復習の要点

#### 1. 「～として」

「米を買う (amam hok)」、「菱の実を採って来る (pekanpe uk wa ek)」、「優佳良織を買って来る (YUUKARAORI hok wa ek)」

(1) 上の表現を、「お土産に～ (imoka ne ～)」という表現とつなげて表現してください。(18-2)

(2) お土産に下の絵のものをかう、または買って行くという表現を作ってください。(18-2)

(例)「お土産に～をかう。(imoka ne ～ ku=hok.)」、「お土産に～を買って行く。(imoka ne ～ ku=hokwa ku=oman.)」など



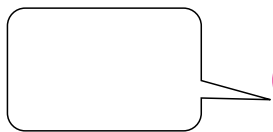
#### 2. 「～と言う」、「～と思う」



[Kaneto]



[Reku]



[Kanto]



[Ay]



[Riko]

(1) 問題1の(1)、(2)で表現した内容は、実は上の人たちが言っていたことです。itak やyeなどの「～と言う」という表現を使って、いろいろな表現を作ってみてください。(18-構文)

(例)「おみやげに鉛筆をかうと言った。(imoka ne anenuyep hok yak ye.)」「『おみやげに鉛筆をかう』と言った。(imoka ne anenuyep hok sekor itak.)」など

(2) 同じ表現を使って、「～と思う」という言い方も練習して見てください。(18-構文)

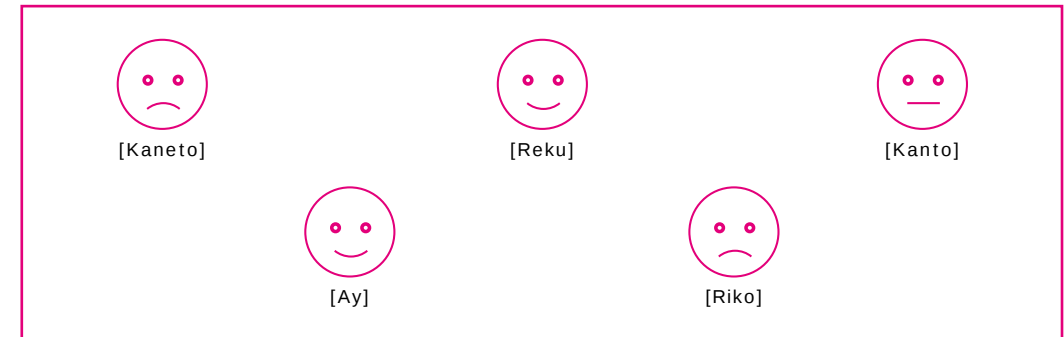
(例)「おみやげに鉛筆をかうと思った。(imoka ne anenuyep hok kuni ramu.)」「『おみやげに鉛筆をかう』と思った。(“imoka ne anenuyep ku=hok nankor” sekor yaynu.)」など

(3) 言ったり、思ったりした人が聞き手として、「～と言う」の表現を練習してみましょう。(18-構文)

(例)「おみやげに鉛筆をかうってあなたが言った。(imoka ne anenuyep e=hok yak e=ye.)」「『おみやげに鉛筆をかう』とあなたが言った。(“imoka ne anenuyep ku=hok” sekor e=itak.)」など

### 3. (する・した)もの、「行く」「来る」などの単複形

(1) 問題2で話していた友達が、お土産を買いに、お店に来ました。



- 最初に来た (hoski ek) >>> Kanto
- 最初にハサミを買った (hoski etuyep hok) >>> Reku
- 最初に～を買ってから帰った (hoski hok wa hosipi) >>> Kaneto
- 最初に～を買いながら言った (hoski hok kor itak) >>> Riko

「最初に～したのは～です」という表現を作ってみましょう。更に「～しながら」という表現も応用してみましょう。(20-1, 20-構文)

(例)「最初に来たのはKantoです。(hoski ek pe anakne Kanto ne.)」、「最初に買いながら言ったのはRikoです。(hoski hosipi kor yaynu p anakne Riko ne.)」

(2) 結局Rekuは以下のものを買いしました。



「最初に買ったのは～です」という表現を作ってください。(20-構文)

(例)「最初にRekuが買ったのはハサミです。(hoski Reku hok pe anakne etuyep ne.)」など

(3) 「(人から聞いて)～だねえ」という表現を作ってください。(19-構文)

(例)「最初に来たのはKantoなんだねえ。(hoski ek pe anakne Kanto ne hawe.)」など

(4) 同じように、以下のような情報もあります。

- 札幌から来た (Satporo wa ...) >>> Riko
- 旭川から来た (Cikapuni wa ...) >>> Ay, Mina, Nana (みんな女性)
- 旭川に行く (Cikapuni ekota ...) >>> Haruto
- 札幌に行く (Satporo ekota ...) >>> Reku, Yupo, Aki (みんな男性)

単複形に注意しながら、色々な表現を作ってください。(19-1)

(例)「札幌から女性が来た。(Satporo wa menoko ek.)」、「旭川から女の人がたくさん来た。(Cikapuni wa menoko poronno arki.)」など

(5) 「道理で(～する・した)わけだ」という表現を作ってください。(19-2)

(例)「札幌から女の人がたくさん来た。道理で若い男たちが集まるわけだ。(Satporo wa menoko poronno arki. eposoun okaypo utar uekarpa ruwe.)」など

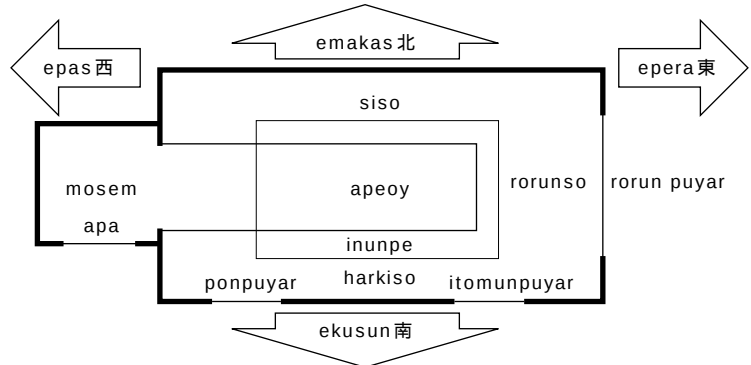
# kampinuye 22 (tup ikasma hot):アイヌ語からみたアイヌ文化

カンピヌイエ トウブイカシマホツ

## 文化的背景

### 1. cise「家」

ciseは、アイヌ式の伝統的な家で丈夫な丸太で骨組みを組んで、葦や萱などで壁や屋根を葺いて作られるのが一般的です。しかし、旭川を含む上川地方では壁を葺くのにuras（熊笹）を用いる点が、北海道の南西地域と著しく異なります。それ以外は、北海道のどの地方でも概ね同様な構造で作られていたようです。大きく分けてciseの本体とmosem「物置」の二つからなる作りで、東(epera)側にkamuyが出入りするrorunpuyar「東窓・神窓」を、西(epas)側にmosemを位置づけ、南(ekusun)側の壁の東寄りにitomunpuyar「中窓」、壁の西寄りにponpuyar「小窓」を配します。玄関にあたるapaには、apaorotpe（時にapaorokpeと発音）と呼ばれる簾をかけて、外から仕切られています。三つある窓にも同様な簾が掛けられ、こちらはpuyarorotpeと呼ばれるようです。それぞれ、apa-or-ot-pe（戸口・のところ・に位置する・もの）、puyar-or-ot-pe（窓・のところ・に位置する・もの）です。rorunpuyar「東窓・神窓」に近い座をrorunso（しばしば/roruyso/と発音）、そこに視点を置いて右側をsiso「右座」、左側をharkiso「左座」と呼びます。ciseの真ん中にapeoy「囲炉裏」が位置し、その縁はinumpeと呼ばれます。cise kor kur「家の主人」とkor (katke)mat「その妻」はsisoに座って（cise kor kurがroruyso側）、sinewekur「訪問客」やyantonekur「泊り客」はharkisoに招き入れるそうです。sisoとharkisoの重なり合う角よりにiyoikir「宝壇」が設置され、そこにはsintoko「宝器・米びつ」やemus「刀」などが陳列・保管されるようです。『萱野茂のアイヌ語辞典』によれば、語源的にはci-setで「私たちの・寝床」ないしは「私たちの・巢」程度の意味のようです。



（旭川アイヌ語教室編『上川地方のアイヌ語』記載の図を基に作成）

### 2. 色の表現

アイヌ語で色を表す述語表現は、retar「白い」、kunne「黒い」、hure「赤い」、siwnin「青い、黄色い、緑色の…」の四つです。これは一見少ないように見えるかもしれませんが、日本語でも色を表す述語表現と言えば『白い』、『黒い』、『赤い』、『青い』、『黄色い』、『茶色い』の六つ程度です。『黄色い』と『茶色い』は『～色』という表現が含まれていることから比較的最近になって用いられるようになったもののように見えます。また、これら以外の色は、『～色の』という派生的な形式を用いなければ表現できません。従って、日本語でも本来色を表す述語表現は『白い』、『黒い』、『赤い』、『青い』の四つと言えそうです。

アイヌ語のretar、kunne、hure、siwninはあくまでも自動詞で、「白い」、「黒い」、「赤い」、「青い、黄色い、緑色の…」という意味を表現すると同時に、「白くなる」、「黒くなる」、「赤くなる」、「青くなる、黄色くなる、緑色になる…」という意味も表します。

また、興味深いことにretar、kunne、hure以外の色は（主に淡色のものは大概）siwninで表現されるようです。ですから、緑から黄緑をへて黄色に及ぶ広い範囲の色も灰色やうす紫なども皆siwninです。更に、「赤い」といっても茶色い（特に錆びた鉄のように赤茶色の）ものもやはりhureですので、現代の日本人が典型的に「赤」と判断する色よりも幅が広いことに注意して下さい。鉄分を多く含む地層を流れる川は、そのような鉄分が溶け出して赤茶けるため、しばしばhure-petやhure-nay（共に「赤い川」の意）と呼ばれますが、現代の日本人が典型的に指す意味での「赤」では決してありません。このような広い意味での「赤」という使い方は、もともとは日本語でもなされていました。

### 3. 数の表現

kampinuye 14「学習の要点1」では、1から10までの数を表す表現を学びました。それぞれ、sine「1」、tu「2」、re「3」、ine「4」、asikne「5」、iwan「6」、arwan「7」、tupesan「8」、sinepesan「9」、wan「10」です。11から19までは、一の位の数+ikasma「余る」という動詞をwan「10」の前に置いて表現されます：sinep ikasma wan「11」、tup ikasma wan「12」、rep ikasma wan「13」、inep ikasma wan「14」、asiknep ikasma wan「15」、iwanpe ikasma wan「16」、arwanpe ikasma wan「17」、tupesan ikasma wan「18」、sinepesanpe ikasma wan「19」。20はhot、30、40、50...ではhotが「10」として用いられ、re hot「30」、ine hot「40」、asikne hot「50」、iwan hot「60」、arwan hot「70」、tupesan hot「80」、sinepesan hot「90」となります。百はatuyta、千はikです。これ以上の数字は、資料の中には見当たりません。

ところで、旭川・静内を除く多くの他方言ではhotが一貫して「20」の意味で用いられるため、tu hotは「40」、re hotは「60」、ine hotは「80」を意味するようです。また、atuytaは、本来「数」を表す言葉ではなく、「（一定枚数の毛皮の）一束」、「一単位」であったらしいことが、資料からうかがわれます。ikも同様で、本来は「節」くらいの意味です。尚、浅井亨先生の「アイヌ語の文法—アイヌ語石狩方言文法の概略—」によれば、ある方が131を次のように表現されたそうです。ここから考えると100をwan hotと言っても通じるらしいことが分かります。

re hot ikasma wan hot or\_ta sinep an=ahunke. 30余る10個の10の一つ入っている。

日本語では、『ひとつ』、『ふたつ』、『みつ』…、『ひとり』、『ふたり』などに現れる『ひ』、『ふ』、『み』、『よ』、『いつ』、『む』、『な』、『や』、『この』、『とを』が数を表す固有語（和語）で、『いち』、『に』、『さん』…は朝鮮半島の言葉を介して借入された中国語です。『さんにん』、『よにん』はこの借入語で、固有語では『みたり』、『よたり』です。固有語で11以上は『とを余りひとつ』、『とを余りふたつ』のようになり、20は『はた』、100は『ほ』または『もも』、1,000は『ち』、10,000は『よろづ』です。万葉集などに見られる五百（いほ）、八百（やほ）、百に千に（ももにちに）などがその例ですが、『岩波古語辞典』によれば『ほ』、『もも』、『ち』、『よろづ』はどれも正確な数というよりは「数の多いこと」を意味したようです。万を超える数には借入語を用います（億、兆…）。従って、固有語で表現できる範囲は日本語もアイヌ語も千ないし万までで大差はありません。尚、アイヌ語のhotと日本語のhataは音が似ていて興味深いです。

### 4. 暦の表現

いつごろからアイヌ語で暦の月の名称を使うようになったのかは判然としませんが、江戸期の文献で既に月を指すアイヌ語が記録されています。旭川方言に該当するものとしては、下の表の左にあげた名称が知られていますが、旭川方言の話者全てがこのような名称を用いていたかどうかは分かりません。月の名称は、少なくともiomante（熊送り）やkamuy nomi（祈りの儀式）に関わる事柄のようなアイヌ語・アイヌ文化一般にある程度共通する知識であったとは考えにくいようです。それを証拠に、月の呼び名は方言による差異が大きいようです。下の表の右に挙げた沙流方言と比較してみると分かるように、なんとひとつの月に対しても同一の名称を用いませぬ。わずかにtoetanneとtowetanneという類似した形が見出せるものの、指す月が3月と1月で異なります。

田村すす子先生の『アイヌ語沙流方言辞典』には「1955年、ワテケさんはhacigaci cup 8月、kugaci cup 9月のように言っていた。」と追記されています。これを考えれば、下に挙げたような言い方は日本語で言う「睦月、如月、弥生、卯月、皐月、水無月、文月、葉月、長月、神無月、霜月、師走」のようなものに該当し、日常生活の中で暦の月に言及する際には、icigaci cup、nigaci cup...あるいはsine cup、tu cupとする方が現実的かもしれません。これも、実際にアイヌ語が使われていく中で、必要に迫られて決まっていくことでしょう。

|     | 旭川方言             | 沙流方言        |
|-----|------------------|-------------|
| 1月  | inomi cup        | towetanne   |
| 2月  | taskur cup       | kuwekay     |
| 3月  | toetanne (cup)   | kiwtacup    |
| 4月  | upas rure cup    | mocup       |
| 5月  | mun tukka cup    | sincicup    |
| 6月  | toyta cup        | mawtacup    |
| 7月  | kunne yas cup    | mawcicup    |
| 8月  | kunne sus(i) cup | haprap      |
| 9月  | yas cup          | nihorak     |
| 10月 | konni ran cup    | urepok      |
| 11月 | nitek ranke cup  | ruwekaricup |
| 12月 | upas ranke cup   | curup       |

アイヌ語・アイヌ文化一般にある程度共通する知識としての暦を意味する表現には、sak pa、mata pa、tokam rerko、kunne rerkoのようなものがあります。アイヌ語では日本語で言う一年（sine pa）をsak pa（夏・年）とmata pa（冬・年）「冬の年」の二つに分けます。また、日本語で言う一日（sine to）も同様にtokam rerko（昼・日）「昼の日」とkunne rerko（夜・日）「夜の日」に二分して考えます。これらとは別に、paykar「春」、sak「夏」、cuk「秋」、mata「冬」という語もkunnnano「朝」、tokam「昼」、onuman「夕方」、kunne「夜」という語があり、それらがむしろ日本語で言う四季や時刻と対応しているように見えます。ですから、sak pa、mata paやtokam rerko、kunne rerkoという言い方は、それらとは別のアイヌ語・アイヌ文化にある暦や時刻の考え方と言っても良いかもしれません。

## 今日の単語

apa アバ【名詞】玄関。; kari cise an=koahun hi(家に入るところ)  
apaorotpe アバオロッペ【名詞】(玄関の)簾(すだれ)。; apa or ta an=otte citarpe(玄関にかけた蓑座)  
apeoy アペオイ【名詞】囲炉裏。; cise oske ta or ta ape an hi(家の中で火のあるところ)  
atuyta アトウイタ【名詞】百。; wan wan(10個の十)  
cise チセ【名詞】家。; an=uni(樓みか)  
cuk チュク【名詞】秋。; sak mata uturuke(夏と冬の間)  
cup チュプ【名詞】太陽(=peker cup)、月(=kunne cup)、(暦の)月。; inom i cup 1月、taskur cup 2月、toetanne (cup) 3月、upas rure cup 4月、mun tukka cup 5月、toyta cup 6月、kunne yas cup 7月、kunne susi cup 8月、yas cup 9月、konni ran cup 10月、nitek ranke cup 11月、upas ranke cup 12月。;  
ekusun エクスン【名詞】南。; or ta peker cuk iyotta rikin hi(太陽が最も高くなるところ)  
emakas エマカシ【名詞】北。; ekusun assoke(南の向かい側)、or ta poronociw an hi(北極星のあるところ)  
emus エムシ【名詞】刀。; an=etuye p、tanne p(切るもの、長いもの)  
epas エパス【名詞】西。; ekota peker cup ahun hi(太陽の沈むところ)  
epera エペラ【名詞】東。; or wa peker cup rikin hi(太陽の上がる場所)  
harkiso ハルキソ【名詞】左座。rorunsoに視点を置いて左側。; cise oske ta ekusun an so(家の中で南側にある座)  
hot ホツ【名詞】二十。; [ 数を表す形容詞+ ] ~十。; tu wan(二つの十)

ik イク【名詞】千。; wan atuyta(10個の百)  
inumpe イヌンペ【名詞】炉縁。; apeoy okari p(囲炉裏を囲むもの)  
itomunpuyar イトムンブヤ【名詞】中窓。; cise tumu ta an puyar(家の中程にある窓)  
iyoikir イヨイキリ【名詞】宝壇。; or ta sintoko okay hi(宝器があるところ)  
mata マタ【名詞】冬。; mata pa 冬の年。; upas as hi(雪の降る時)  
mosem モセム【名詞】物置。; or ta apa an pon cise(玄関のある小さな家)  
paykar バイカ【名詞】春。; upas ru hi(雪の解ける時)  
ponpuyar ボンブヤ【名詞】小窓。; iyotta epas ta an puyar(一番西にある窓)  
puyarorotpe プヤロロッペ【名詞】(窓の)簾(すだれ)。; puyar or ta an=otte citarpe(窓にかけた蓑座)  
rerko レレコ【名詞】日。; tokam rerko 昼の日。; kunne rerko 夜の日。; to(日)rorunpuyar ロルンブヤ【名詞】東窓・神窓。; epera an puyar(東にある窓)  
rorunso ロルンソ【名詞】上座。(しばしば/roruyso/と発音)。; epera an so(東にある座)  
sak サク【名詞】夏。; sak pa 夏の年。; iyotta sirsese hi(最も暑い時)  
sintoko シントコ【名詞】宝器・米びつ。; amam an=omare p(米を入れるもの)  
siso シソ【名詞】右座。rorunsoに視点を置いて右側。; emakas an so(北にある座)  
uras ウラ【名詞】ささ、熊笹。; cise tumam cise oson ekota an=tese kina、an=ecisekar pe ene an=ye korka toy or wa etuk pe anak "huttat" sekor an=ye(家の壁、屋根に編みつける草、家の材料としてはこう呼ぶが、地面に生えているものはhuttatと言う)

## kampinuye 23 (rep ikasma hot): 良い、悪い

カンピヌイエ レパイカシマホツ

|                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| A: numan ruyanpe as korka kamuy keray kusu tanto anakne<br>ヌマンルヤンペアシコロカ カムイケライクスタントアナッネ<br>sonno sir pirka siri.<br>ソンノシリピリカシリ                                                                                                                                    | 昨日、雨降ったけど神様のおかげで今日は<br>すっかり晴れたね。                                  |
| B: um. sonnoka pirka kamuy utar aynu mosir_tā nep ka<br>ウム ソンノカピリカカムイウタァアイヌモシッタネッカ<br>an=eranak pe isam kuni pirkano un=kasinukar wa okay.<br>アネラナッペイサムクニピリカノウンカシヌカラオカイ<br>tanpa ka kamuy pase nomi an=okere easkay. pirka, pirka.<br>タンパカカムイパセノミアノケレエアシカイ ピリカピリカ | うん。有難い神が人間界に何も心配事が<br>ないよう良く守ってくれてる。今年も<br>神への祈りが無事済んだ。良かった。良かった。 |

### 学習の要点

- pirka/wen, poro/pon

**pirka**は、**話し手が望ましいと思うものを形容して言う表現で、「良い」、「美しい」、「立派な」、「たいそうな」など日本語では様々に訳されます。**その反義語が**wen**で、**これまた「悪い」、「酷い」、「貧乏な」、「みすばらしい」など様々に訳されます。**注意しなければなら  
ないのは、これらは形容詞ではなく動詞であって、これらの状態的な意味と並んで「**良くなる**」、「**美くなる**」や「**悪くなる**」、「**酷くなる**」  
のような動作的な意味も表すということです。また、第一期の教科書のkampinuye 12「学習の要点2」で学んだ、noが後続するこ  
とでpirkano「良く・十分に・しっかりと」、wenno「悪く・酷く」のような副詞を派生します。

同様に反義の関係にある言葉に**poro**「**大きい・大きくなる**」と**pon**「**小さい・小さくなる**」があります。これらもpirkaとwenと同  
様動詞で、noが後続することで**poronno**「**たくさん**」、**ponno**「**少し**」のような副詞を派生します。

名詞を修飾すること(限定用法)は出来ても、主語を取って述語として働くこと(叙述用法)が出来ない語があります。sine、tu、  
reといった数を表す言葉やtan、taanのような指示表現などがその代表的なものです。本講座では、このようにもっぱら名詞修飾語  
としてのみ用いられる(動詞的な)表現を他の動詞と区別して「形容詞」と呼びます(これらは伝統的なアイヌ語文法では連体詞と呼ば  
れてきました)。けれども、これらの名前は便宜上用いるもので、実際には「叙述用法を持たない動詞」と言っても同じことです。

- sir pirka

**sir pirka**「**天気が良い**」の**sir**は、大きく視界の中に捉えた内容を指す語で、「大地」、「山」などの具体物から「(見える)様子」、「(見  
える)状況」というやや抽象的なものまで、様々なものを指します。「(見える)様子」、「(見える)状況」の一つの典型的な例が**sir  
pirka**のような「**天気**」の表現です。同様な天気表現には、sir wen「**天気が悪い**」、sir popke「**暖かい**」、sir serek「**暑い**」、sir  
meman「**涼しい**」、mean「**寒い**」などがあります(●sir meanとは言わないようです。どういうわけか「寒い」だけにはsirが用いら  
れないのだそうです)。また、雨が降り出す前に空が暗くなるようなことをsir kunne、雨雲が俄かに空を覆って真っ暗になることをsir  
ekurok、雨が上がりが晴れ渡ることをsir pekerと言うそうです。是非とも注意をしたいのは、これらの表現は「**天気が良い・悪い...**」  
という「ある様子である・ある状態である」という意味と共に、「**天気が良くなる・悪くなる...**」といった「ある様子になる・ある状態に  
なる」という変化も意味するという点です。同様な多義性については、本課の「学習の要点1」でも指摘したとおりです。

sir kunneやsir pekerは、天気以外にも「日が暮れてあたりが暗くなる」や「夜が明けてあたりが明るくなる」という意味にも用い  
られます。sir onuma anも「日が暮れる」ことを差すのに使うことが出来ますが、onuman「夕方」がan「現れる」の構成から「夕  
方になる」が文字通りの意味です。onuman anに類する表現にkunnano an「朝になる」、tokam an「昼になる」、konne an「夜  
になる」があることは、第一期の教科書のkampinuye 10「学習の要点2」で学びました。

### 今日の構文

**文**+keray kusu:...(する・した)のおかげで

第一期の教科書のkampinuye 8「今日の構文」で、kusuは**文...**+kusu+**文~**の形で「...(する・した)から~(する・した)、...(  
する)のために~(する)」ように「原因・理由」または「目的」を表現するのに用いられることを学びました。

ruyanpe as kusu ekasi ek eaykap. 雨が降ったからおじいちゃんは来られない(来られなかった)。

huci sinewe kusu ek. おばあちゃんが遊びに来た。

それに比べるとやや使用頻度は下がりますが、「原因・理由」を単なる原因・理由としてだけでなく「**恩恵・加護**」として**表現するの  
にもkusuが用いられます。**その際は、**keray**を伴った形で現われ、「~のおかげで」としばしば訳されます。

kotan kar kamuy an keray kusu siknu=an. 国造りの神がいたおかげで、私は生き延びた。  
e=an keray kusu nispa pirka. お前がいてくれたおかげで、主人も元気になった。

また、ukoitakの例にも見られるようにkamuyなど特定の語に限ってkeray kusuの前の文の位置で用いることが出来るようです。  
この例は、kamuy an keray kusuのanが脱落した形とも解釈出来ます。また、次にあげたようにkeray kusu単独で「そのおかげ  
で」という意味の副詞句として用いられている例も散見されます。

totto takenoko ei yok wa amam hok wa keray kusu ipe=as. 母が筍を売り、米を買って、そのおかげで私たちは生活していくことが出来た。  
i=ama na. keray kusu siknu=an na. 私(沼貝)を(御幣の間に)置いたよ。そのおかげで私は生き延びられたよ。

### 文化的背景

ukoitakの中でkamuy pase nomiと言っているのは、一般にカムイノミ(神への祈り)として知られている儀式のことです。旭川方  
言圏で一年間に執り行われる代表的なカムイノミは、大きく分けて四つだそうです。最も代表的なのはiomante「熊送り」で、冬に行  
われる大変重要な儀式であると同時に一大行事です。子供のうちに山で採られた熊(pon eper)を二度の冬を越すまで育て、通例三  
度目の冬にはその魂(ramaci)をkamuy mosir(神の世界)へ送り返します(一説には、三度目の冬を越した四歳熊は、危険では  
や飼うのが困難であることにその理由があるとも言われています)。毛皮・肉など全てを土産として身にまとしてaynu mosir(人間の  
世界)に届けてくれたkimun kamuy(熊)に感謝し、たくさんのご馳走とまでをなしを伴ってkamuy mosirへお送りするのが第一の  
目的ですが、老若男女を問わず誰もが心待ちにしている大切な祭りでもあります。

残る三つの代表的なカムイノミは、一月に行われるasirpanomi「新年の儀」、五月に行われるcinomisirkamuynomi「チノミシリ  
の儀」、九月に行われるasircepnomi「新魚の儀」です。asirpanomiは、身内や近親などのみで「新年の多幸」とその力添えを求め  
て神に祈る比較的小規模な儀式です。それに対してcinomisirkamuynomiはkotan(町・村)の霊峰であるcinomisir(旭川では  
嵐山)で行われる儀式で、sinnurappa(先祖供養)を兼ねた比較的大きな儀式です(旭川では先祖供養自体を目的にカムイノミをす  
ることは避けられる傾向があり、そのため他の祈りと「兼ねた」形を取るのだそうです)。asircepnomiは、最初に川(旭川では石狩  
川)を遡上してきたkamuy cep(鮭)を手厚く迎え入れ、豊漁の年にはそれに感謝し、不良の年には翌年の豊漁を祈願するやはり比  
較的規模の大きな儀式です。

これらの儀式以外にも、家の新築、狩や漁に際して、あるいは疫病や怪我あるいは天災や事故などがあった際にも、その都度大小の  
カムイノミが執り行われます。狩の中でもkimun kamuyの猟は特に重要で、猟に発つ前、猟の間に宿泊する仮小屋を建てた後その  
前で、熊の穴を見つけたらその側で、熊が採れたらその場でなど、一度の猟に際して数次に渡って行われるそうです。

尚、kamuy pase nomiのnomiという語は「~に祈る・~を祀る・~を拝む」といった意味を持つ他動詞です。従って、kamuy-  
nomi「神に祈る」は文法的に問題がありませんが、pase nomiは目的語が掛けた不完全な形で、nomiの自動詞形を用いたpase  
inomiのほうが文法的だと言う人もあるかもしれません。けれども、カムイノミに用いられる言い回し(iporse)は、口語体とは異なる  
文語体を用いることももちろんのこと、ユーカラなどに代表される文学的な言葉遣いとも幾分異なる独特な語法を用いる傾向がある  
ようです。これは、祈る神、祈りの内容、祈る人の家系により特殊な単語や表現が用いられることとも関係があるそうです。このため、  
口語体やユーカラなどで知られている文語体の文法に照らして見ると、文法的に破格であったり、ややもすると間違っているように見  
えることもあるかもしれません。けれども、これは通常aynu(人間)同士が意思疎通のために用いる言葉でなくkamuyとの対話に用  
いられる特別な言葉であり、全てのaynuに理解されることを必ずしも意図しないことを考え合わせると、「破格・間違え」との判断は  
性急です。「祈り」というものの性質上、他の言語資料に比べて記録された例が少なく、そのために用いられる語法は十分に研究され  
ておらず、従ってあまり良く分かっていません。他の言葉遣いと異なり誰にでも分かる形にする必要はありませんが、この分野について  
も人念な研究を行って、カムイノミを取り仕切っていくべき人々の間では祈りの言葉として正確な文法と表現が維持されていくよう努  
力する必要があります。

### 言葉をもう少し詳しく

興味深いことに、日本語の『ため』という言葉もkusuと同様に「原因・理由」と「目的」の両方を表現するのに用いられます。

雨が降った**ため**(に)、おじいちゃんは来られない(来られなかった)。

おばあちゃんは、私たちに会う**ため**に来た。

kusuと『ため』は音という点では似ていません(専門的にいえば「音韻対応」がありません)が、意味と機能という点では際立った類  
似性と言えます。尚、韓国語では「原因・理由」はddemun-ettesmun、目的はwihayeo ウイハヨまたはwihae ウイヘで表現し分け  
るため、この点では日本語・アイヌ語と異なります。

### 今日の単語

aynuアイヌ【名詞】(kamuy「神」に対して)人間、(mat「女」に対して)男、(sisam「和人」に対して)**アイヌ人**。;kamuy ka kamias ka somo ne utari  
(神でも化け物でもない者たち)  
easkayエアシカイ【他動詞】~が上手だ、~が出来る。(反eaykap; 自askay);【助動詞】(～する)ことが出来る。(反eaykap);pirkano an=ki(上手にやる)ene  
an=kar hi an(方法がある)  
eranakエラナッ【他動詞】~を心配する、~について悩む。;an=eranak pe悩み事。;an=pakari hike sampewen=an(～について考えて具合が悪くなる)  
isamイサム【自動詞】ない、いない、なくなる、いなくなる、亡くなる。(反an, okay);katu sak, tum sak(姿がない、体がない)  
kasinukarカシヌカラ【他動詞】~を見守る。;an=epunkine(～を見守る)  
kerayケライ【副詞】[文+ kusu kerayの形で](～する・した)のおかげで。;[iki keray kusu] ene kiroroan hi iki kusu(嬉しいことに~ので)  
kuniクニ【接続助詞】[文+ ][+ ye/ramu](～する・しよう)と(言う・思う);yak pirka(～するとよい)  
mosirモシ【名詞】世界、国。;[名詞+ ]~界。;aynu ne ciki kamuy ne ciki or ta okay hi(人間や神が住むところ)  
nomiノミ【他動詞】~に祈る、~を祀る、~拝む。;kamuy an=koonakami(神に挨拶する)  
numanヌマン【名詞・副詞】昨日。(関kunnano, tokam, kunne);tanto etoko ta ek to(今日の前に来た日)  
okayオカイ【自動詞】ある、いる、暮らす、あられる。(反isam; 単an);katu kor, tum kor(姿を持つ、体を持つ)  
okereオケレ【他動詞】~を終える、(生き物)を滅ぼす。;[動詞 wa okereの形で](～し)終える。;【助動詞】(～し)終える。;nep ka an=ki wa kese  
pakno iki=an(何かをして終わりまでやる)  
paseパセ【自動詞】重い、重要な、厳かな、尊い。;somo kosne(軽くない)、an=eyam(大事な)  
pirkanoピリカノ【副詞】良く、しっかりと、じつくりと。(cf. pirka);wenko no(良く)  
ruyanpeルヤンペ【名詞】雨。「雨」の意味でaptoを用いる方言もあるが、旭川でaptoは寧ろ「嵐」となることが多いらしい。;nis kotor wa wakka rap(空か  
ら水が降る)  
sirシリ【形式名詞】目で見え様子、状況、天気。;【名詞】大地、(地形としての)山。;ene an=nukar katu(見える姿)  
sonnokaソンノカ【副詞】本当に、とても。;kasuy(～すぎる);  
tanpaタンパ【名詞・副詞】今年。;tanto oma pa(今日が入っている年)  
tantoタント【名詞・副詞】今日。;tane an to(今ある日)  
un=ウン【人称接辞】[+他動詞]私たち(を～する)。;[+位置名詞]私たち(の～)。;itak kur utar ekota iki=an sekor an moymoykeitak etoko us(話  
し手に対して何かがされるという動詞の前に付く)

# kampinuye 24 (inep ikasma hot): 出来る、出来ない

カンピヌイエ イネナイカシマホツ

C: totto, huci tanpe en=kore korka ku=eaykap. ママ、おばあちゃんこれくれたけど出来ない。  
トット フチタンペエンコレコロカクエアイカッ  
A: huci mukkur e=kore hawe? ばあちゃんムックリくれたのね。  
フチムックルエコレハウエ?  
C: nekon ku=iki yak pirka? en=epakasnu wa en=kore. どうやったらいいの。教えて。  
ネコンクイキヤッピリカ? エネパカシヌワエンコレ  
A: en=kore \_hani. pirkano nukar \_hani. tanpe an=ani wa ちょうだい。良く見てね。これを持って  
エンコレアニ ピリカノヌカラニ タンペアナニワ  
ka an=nimpa ru ne. 紐を引っ張るの。  
カアンニンパルネ

## 学習の要点

### 1. hani

**hani**は、**文末で用いられて大抵目下の人に対する命令文を表現します**。言い諭すような言い方で、主に子供に対して用いられるようです。この点では、類似した機能を果たすnaよりも強い心的働きかけをすることを前提としていて、その分だけ同等の立場の人に用いても、やや「なれなれしい」あるいは「無礼な」表現となる恐れあります。加えて、naと異なり命令を表現することは出来ても、疑問を表現するのには用いられません。これは、haniの意味が前提とする「強い心的働きかけ」に理由があるようです(詳しくは、本課の「言葉をもっと詳しく」を参照)。

尚、表記としてはhaniと綴られますが、実際の発音ではhが脱落して/ani/となることが多く、また次に引用したukoitakでの例のようにaの母音が前の子音と連続することもしばしばです。

pirkano nukar \_hani. 良く見てるんだよ。

### 2. eaykap, easkay

eaykap, easkayが動詞(句)に後続して「(～する)ことが出来ない」、「(～する)ことが出来る」という意味を表す助動詞としての用法は、rusuy「(～し)たい」との関連で第一期の教科書kampinuye 11「学習の要点2」で既に学びました。この同じeaykap、easkayという語は、**名詞(句)を目的語にとってそれぞれ「～が下手だ・～が出来ない」、「～が上手だ・～が出来る」という意味を表す他動詞としても用いられます**。

sisam itak ku=eaykap. 私は日本語が下手だ・出来ない。

kampi ka e=easkay. お前は勉強も出来る。

関連する表現にaykap「下手だ・出来ない・届かない」、askay「上手だ・出来る」があり、これらにe-「～について」という表現が付いたのがeaykap、easkayという表現です。因みに、aykapという語はアイカッパという発音で道内各地の地名として点在しています。知里真志保先生は『地名アイヌ語小事典』の中で「けわしくて通りぬけられぬような岬をさして云っている」と説明されています。

## 今日の構文

**動詞**+ yak pirka/ **動詞**+ yak wen:「(～し)たらいい、(～する)といけない」

**動詞**+ yak pirka「(～し)たらいい・(～する)といい」、**動詞**+ yak wen「(～する)といけない、(～しない)といい・(～しなかったら)いい」は口語的な表現で、**動詞**+ kuni「(～す)べき」、somo **動詞**+ kuni「(～し)ないでおくべき」に対応する意味を表すと考えられます。somo **動詞**+ kuniよりも更に固い文語的な表現に、**動詞**+ kuni ka somo an「(～せ)ずにおくべき」、**動詞**+ kuni ka hatto an「(～せ)ざるべき」などがあります。

ku=ray yakne ukor wa pirka uekatayratkino okay yak pirka p nep kusu ku=siknu.

私が死んで他の人と結婚して円満に暮らしたらいいのに、どうして死なないの。

eikos ku=monrayke ku=arka yak wenあまり働きすぎて病気になるてはいけない。

『～するといい』、『～しないといい』は、日本語で考える限り、穏やかな表現に感じられるかもしれませんが、「(～す・～せざる)べき」という義務の意味から命令に近いニュアンスを感じ取れる場合もあります。

ekota e=oman\_yak pirka. お前はそこへ行ったらいい/お前はそこへ行きなさい。

直接関係はありませんが、英語で「そこへ行きなさい」という意味を表現する際にYou must go there.というと単にGo there.と言うより強い命令口調となります。

## 文化的背景

mukkur「口琴」は、片方の端を口元に固定して一部を振動させて鳴らす楽器で、世界中の各地に見られるものです。現在のアイヌ文化では竹で作られるのが普通で、長さ15センチから20センチ、幅2センチほどを切り出して、その中ほどを薄い振動しやすい形にくり抜いて作られます。振動する部分の根元には紐が固定され、その紐の一方を横方向、やや前よりに向かって連続的にひっぱることで音が奏でられます。日本語ではムックリと発音されることが圧倒的に多いようですが、アイヌ語でそのように発音する方言は非常に少ないようです。

楽器には、mukkurの他にtonkori(五弦琴)、repni(拍子木)、kaco(太鼓)などがあるようです。tonkoriやkacoはサハリンで作られた例が良く知られていますが、古くは北海道でも用いられたようです。また、repniはユーカラを演ずるときなどに用いられるものですが、一種の伴奏を行うと考えれば楽器と言えるかもしれません。草笛やその他の笛も一種の楽器と見ることが出来るかもしれません。

## 言葉をもっと詳しく

hani、na、ya、yanは、聞き手が主語となる文の最後で用いられる場合、いずれも「話し手が聞き手に何らかの心的働きかけをしていること」を表現します。haniとnaはどちらも「命令」を表現するのに用いられますが、本課の「学習の要点2」で学んだように、haniはnaよりも強い心的働きかけ(子供に対して言い諭すような言い方)をすることを意味し、同等以上の立場の聞き手に対して用いると「なれなれしい」あるいは「無礼な」表現となります。naは、haniと異なり「疑問」の表現にも用いられます(nep ka cikap somo e=sitayki ruwe na「お前は何か鳥を痛めつけなかったか?」)。一方、yaは聞き手からの答えを求める「疑問」の表現に使われることに加えて、聞き手の動作を求める「依頼」にも用いられます(第一期の教科書のkampinuye 3「学習の要点3」で既習)。yanは、「聞き手の動作を求める」という心的働きかけがyaよりも弱く、より丁寧な「依頼」を表現します。

これら四つの表現を「心的働きかけの強さ」に基づいて並べると下の図のようになります。強い働きかけを意味する表現ほど「命令」に用いることができ、弱い働きかけを意味する表現ほど依頼に用いることが出来ることが分かります。それに対して、極端に強くも弱くもない中程度の働きかけを意味する表現が疑問に用いられるようです。弱い心的働きかけを前提とするものほど目上の聞き手に用いやすく、強い働きかけを意味するものほど目下の聞き手でなければ無礼な響きを伴いやすくなります。

心的働きかけの強さ 強 hani > na > ya > yan 弱  
発話行為 命令 疑問 依頼

## 今日の単語

aniアニ【他動詞】**～を手に持つ、～を掴む**。(複 *anpa*) ; an=teke an=omare( 手の中に入れる )

eaykapエアイカッ【他動詞】**～が下手だ、～が出来ない**。(反 *easkay*; 自 *askay*) ; 【助動詞】(～する)ことが出来ない。(反 *easkay*) ; wenno an=ki( 下手にやる ) ene an=kar hi isam( 方法がない )

epakasnuエパカッヌ【他動詞】[ 二重目的語 + ] **～に～を教える**。 ; nen ka nep ka an=eramante( 誰かに何かを分らせる )

haniハニ【文末詞】( 主に目下の者に対して ) **(～し)なさい、(～する)んだよ**。(類 *na*) ; an=pawetenke hi ta iyotta osi an=ye itak( 指図したりする時に最後に言われる言葉 )

huciフチ【名詞】**お婆さん、お婆ちゃん**。(反 *ekasi*) ; rupne mat( 年をとった女性 ) , an=ona unu( 父の母 ) , an=unu unu( 母の母 )

ikiイキ【自動詞】**する、行動する**。(他 *ki*) ; nep ka moymoyke an=kar( 何か動きをする )

kaカ【名詞】**紐、糸**。 ; tus neno tanne p, akkari ane p( 紐のように長いもの、それより細いもの )

kiキ【他動詞】**～をする**。(類 *kar*) ; [ 動詞句 + ] **(～)する**。 ; nep ka moymoyke an=kar( 何か動きをする )

mukkurムックル【名詞】**口琴、ムックリ**。 ; ~ rekte ムックリを鳴らす。 ; an=paro samake ta an=rechte p( 口の側で鳴らすもの )

nekonネコン【副詞】**どう、どのように**。 ; [ nekon anの形で ] どんな、どのような。 ; nep neno( 何のように ) ;

nimpaニンパ【名詞】**～を引っ張る**。 ; an=sikoeyaye( 引く )

nukarヌカㇿ【他動詞】**～を見る**。 ; ekota inkar, sikkuste( ~に目を遣る、~に目を通す) ;

# kampinuye 25 (asiknep ikasma hot): ~するな、~しよう

カンピヌイエ アシクネナイカシマホツ

- B: ecikki epututu na. pon\_ekatci mukkur\_rekte eaykap ru ne. ふくれるんでない。小さい子はムックリ鳴らせないのさ。  
エチッキエプトウトナ ボネカッチムクンレクテエアイカナルネ  
taan\_hi ta e=oman wa e=upopo yak pirka. あっち行って踊ったらいいしょ。  
タアンタエオマンワ エウボボヤッピリカ
- A: mukkur akkari upopo pirka humi. uturano paye=an wa ムックリより踊りがいいかもね。一緒に行って  
ムックラアッカリウボボピリカフミ ウトゥラノパイェアンワ  
upopo=an rok 踊ろう。  
ウボボアンロッ

## 学習の要点

1. ecikki (, ik(i)ane(y)peka, ikianep, inkanep, somo...nankor)  
ecikkiは、「~するな、~しないで、~しないで下さい」のような禁止の命令や依頼を表現するのに(しばしば文の始めに)用いられます。後に続く動詞は、e=、es=が付く場合(文法的には平叙文と呼ばれます)と付かない場合(文法的には命令文と呼ばれます)があります。また、禁止という「内容を確認」したり、「親しみの念を加える」など聞き手に対してより強く心的な働きかけをする際には、文末でnaが加えられます。

ecikki e=nimpa. 引つ張るな。  
ecikki aynu kotan wente na. 人間の村を荒らすなよ。

「~しないで」という意味が、後続の文の途中までしか及ばない場合がしばしばあります。そのような場合、**no**という表現までがecikkiで禁止ないしは否定され、それ以降は単なる(肯定的)命令あるいは依頼の表現として働きます。下の例では、cis「泣く」、iruska「怒る」、hosippa「帰る」、isitoma「怖がる」は禁止・否定されますが、suke「料理する」、nu「聞く」、okay「いる」、ki「する」は禁止・否定されないことに注意して下さい。

ecikki cis no suke. 泣かないで料理をして(くれ)。  
ecikki iruska no nu. 怒らないで聞いて(くれ)。  
ecikki es=hosippa no es=okay nankor. 帰らないで、いるんだよ。  
ecikkki isitoma no suke poka wakkata poka ki wa i=korpore. 怖がらないで、料理でも水汲みでもして下さい。

このように日常的な言い回し(口語体と呼ぶことができます)では多くecikkiが用いられますが、somo...nakorという言い方も時折見られます。それに対して正式な言い回し、堅苦しい言い回し、文学的な言い回しで(文語体と呼ぶことができます)では、ecikkiの代わりにikianeypeka(縮約されてikaneypeka、ikanepekaとも)が用いられることが多いようです。同様な文体では、ikianep、inkanepなども見られます。

2. akkari  
akkariは、**名詞**+akkariの形で比較の基準を表して「~より」のように訳されます(助詞としての用法)。また、**名詞を伴わずに単独で用いられると、既に前の文脈で話題となったものを指して「それより」という意味を表します**(副詞としての用法)。「~するより」のように動詞句が比較の基準を表す場合には直前にhi「こと」、「ところ・とき」という意味もあります)という表現を伴って動詞句を名詞化します。

ne cikap amamecikap akkari poro. その鳥ははずめより大きい。  
kor turesi anakne en=akkari paporo ru ne. 彼の妹は私よりも年上なんです。  
e=kor=an\_hi akkari heru aynu ne esi=ukor yakne e=suye e=pirka na.  
私がお前と結婚するよりもお前たち人間同士で結婚すればお前は料理も上手で幸せになるぞ。

akkariは、「~を超える」という次に挙げた一つ目の例に見られるような空間的移動を意味する他動詞に由来します。二つ目の例のhot akkariは、依然として他動詞として用いられながらも空間移動ではなく比較の基準を表している例です。

orowano ne\_hi an=akkari hine paye=an. そして、そこを超えて行った。  
hot akkari okay utari 20人を超える人たち・20人以上の人たち

名詞を伴って助詞として用いられるだけでなく、単独で副詞としても用いられるakkariのような表現は、このように他動詞に由来することが多いようです。類似した例に、tura「~と共に、それと共に」、ani「~で、それで」、kari「~を通して、それを通して」、okari「~を回って、それを回って」などがあります。これらの助詞・副詞と同じ綴りを持ち「~を連れる」、「~を手にする」、「~を通る」、「~を回る」という意味を持つ他動詞が存在します。

## 今日の構文

**自動詞**=an ro(k) / an=**他動詞**+ro(k)  
話し手・聞き手の両方の行為を表現する動詞の前にはan=が付くことをkampinuye 16「学習の要点1」で学びました。実は、an=が付くのは原則として**他動詞**の場合で、**自動詞**の場合には**動詞の後に=anが付きます**。つまり、同じく「私たちが(~する)」という意味を表現するのにも、**自動詞**=anとan=**他動詞**の区別が必要です。

- aynu itak ani ukoitak=an easkay. 私たちはアイヌ語で話せる。  
aynu itak ani an=ukoitak easkay.

- Sorapci wa arki=an. 私たちは空知から来た。  
Sorapci wa an=arki.  
pekanpe poronno an=uk. 私たちは菱の実をたくさん採った。  
pekanpe poronno uk=an.  
tanpe an=hok rusuy. 私たちはこれを買いたい。  
tanpe hok=an rusuy.

ro(k)は、これら=anまたはan=が付いた動詞の後で用いられて勧誘の表現を形成し、「~しよう・~しましょう」程度の意味を表します。発音は、roとrokの両方がありますが、いずれの場合もoの母音は少し長めに発音されます。

itak=an rok. 話しましょう。  
kira=an rok. 逃げよう。  
topenpe an=e rok. お菓子食べましょう。  
ipe=an ro. 食事をしよう。

勧誘の表現は、同様な**自動詞**=anまたはan=**他動詞**の後にnaを加えることでも表現することが出来ます。類似した表現ですが、naの代わりにnankor naを加えた文が勧誘の表現に用いられている例は資料中に見つかりません。

tante rewsian na. (私たちは)ここに泊まるよ。  
uymam=an na. 交易に出るぞ。

## 文化的背景

他方言ではupopoは歌(特に輪唱される座り歌)、rimseは様々な踊りを指す語として用いられるようですが、旭川では歌も踊りもほとんどがupopoと表現されるようです。古くは旭川でも他方言のようにrimseが踊りの意味で用いられたかもしれませんが、現在ではku rimseなどの一部の踊りの名前以外では用いられないそうです。多くの歌には振りが付き、踊りには決まって歌が伴いますので、そもそも「歌」と「踊り」の区別は明確ではないのかもしれませんが。upopoは「歌う・踊る」という意味の動詞としても用いられます。「輪踊りする」の意味の動詞としてはrimseも用いられるようです。

旭川で代表的な踊りには、sokari upopo「輪踊り」(sikari upopoとも)、cikap upopo「鶴の舞」、rok upopo「座り歌」(ukouk「輪唱」が特徴)、ku rimse「弓の舞」、emus upopo「剣の舞」などがあります。座りながら歌われるrok upopoと対比して、それ以外の踊りをroski upopo「立ち歌」と言うこともあるそうです。これら以外にも、erum upopoのように北海道南西部から取り込まれたものや、uekapのように比較的時代が下ってから意識的に創作されたものに到るまで多数存在します。(情報提供：旭川チカブニ・アイヌ文化保存会)

## 言葉をもう少し詳しく

kampinuye 15「言葉をもう少し詳しく」では、**文**+siri、**文**+ruwe、**文**+haweの形で現れるsiri、ruwe、haweがいずれも日本語で「(~する・である)こと・の」程度の意味を表すある種の名詞(日本語の形式名詞に相当)で、それぞれ「~する・である」という判断をどのような情報源から得たものとして表現しているかという点で異なることを学びました。**文**+siriの場合は「見た様子」、**文**+ruweの場合は「既に獲得した知識」、**文**+haweは「人から聞いた言葉」に基づいて判断がなされたことを意味します。これに対して、**文**+humiは文で表現される内容がそれ以外の情報源(「味覚・嗅覚・触覚で得られた感覚」あるいは「直感・第六感」)から得られたことを意味します。

**文**+siri(視覚)、**文**+ruwe(知識)、**文**+hawe(言葉)、**文**+humi(その他の感覚)

これら「味、におい、その他の身体感覚」あるいは「直感・第六感」などに基づいてなされた判断は、**文**+siri、**文**+ruwe、**文**+haweが用いられる場合に比べて根拠が不確かで、より主観的なものとなるため、**文**+humiは「~かもしれない」、「~する・した感じがする」程度の意味になりやすいようです。それよりもやや確信の度合いが高くなるとnankor、更に高くなるとkusne(ないしkuni)が用いられるようです。

確信の強さ 強 **文**+kusne(/kuni) > **文**+nankor > **文**+humi ne 弱

## 今日の単語

akkariアッカリ【他動詞】**~を超える**。;【助詞】(比較の基準を示して)**~より**。;oika(~を越す)  
ecikkiエチッキ【副詞】[**文**](**~する**)**な**。;[ecikki**文**no**文**]の形で[**~せ**]**ずに~(しなさい)**。;[iki+]somoiki na(~するな)  
ekatciエカッチ【名詞】**子供**。ekaciとも言う。;po(子供)  
epututuエプトウト【自動詞】**膨れっ面をする、怒る**。;iruska=anwa notakam an=hupte(怒って頬を膨らます)  
hiヒ【形式名詞】[**文**](**~する・した**)**こと**。;[**文**](**~する・した**)**時**;[tan/taan/toan/nean+](**こ・そ・あそ・そ**)**こ**。;[ene 動詞句 hi]の形で[**~する**]**方法**。;  
humiフミ【形式名詞】[**文**](**言葉以外の聴覚・味覚・嗅覚・触覚・直感から判断して**)(**~する・した**)**感じ**、(**~する・した**)**みたい・かもしれない**。;[文末詞的に用いて]**~たねえ、~なの?**;ene an=nu katu(感じたこと)  
paye/パイェ【自動詞】(複数の人・ものが)**行く**。話し手と聞き手のいる場所から遠ざかる移動をする。(単oman);or ta itak kur newa inu kur okay hi wa no tuyma(話し手と聞き手のいるところから遠くなる);  
ponボン【自動詞】**小さい、小さくなる**。(反pora);somo poro(大きくない)  
rekteレクテ【他動詞】**~を鳴らす**。;humi an=nuyar(~の音を聞かせる)  
rokロッ【文末詞】[**文**](**~し**)**よう、(~し)ましよう**。;inu kur turano iki hi ta itak kur ye p iyotta iosi ek itak(聞き手と共にする時に話し手が言う言葉の最後にくる言葉)  
taanタアン【形容詞】【形容詞】**その、あの**。話し手と聞き手のいる場所(「*te*テ」や「*teor*テオロ」で指し示される場所)の外にある。(toanとの対比で)比較的近いと話し手が思う。(反*tan*, *taan*):“te, teor” soyke ta an, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (toanpe akkari hankenon an)(「ここ」の外にある、話し手と聞き手のいるところの外にある[*toan*よりも近くにある])  
upopoウボボ【自動詞】**歌う、踊る**。;【名詞】**歌、踊り**。;rimse=an(踊る)  
uturanoウトウラノ【副詞】**一緒に**。;sine an hi ta okay wa(同じ場所において)

## kampinuye 26 (iwanpe ikasma hot): 練習問題(5)

カンピヌイエ シネフイカシマホッ

### 復習の要点

#### 1. 「～するな、しないでください」、「～より～だ」、「～するとよい」、「良い・悪い」

「米を買う (amam hok)」、「菱の実を採って来る (pekanpe uk wa ek)」、「優佳良織を買って来る (YUUKARAORI hok wa ek)」、「ムックリをあげる (mukkur kore)」

(1) 上の表現を、「お土産に～」という表現とつなげて表現してください。(18-2)

(2) さて、友達が、お土産に下の絵のものを買おうとしています。買わないように言ってください。(25-1)

(例) 「～を買うな。(ecikki ~ e=hok.)」など



¥80



¥20,000



¥300



¥3,000

(3) なぜ買ってはいけないといったのかと言うと、実は下の店の方が安いものが多いからです。



¥100



¥10,000



¥250



¥800

「～より～」という表現を使って、絵を指差しながら説明してください。(25-2)

(例) 「この鉛筆は、あの鉛筆より高いです。(tan anenuyep taan anenuyep akkari ataye yupke.)」、「あの本は、この本より安いです。(taan kanpisos taan kanpisos akkari ataye hawke.)」など

(4) 確かに問題(3)の製品がお買い得のようです。すすめてみてください。(24-構文)

(例) 「この鉛筆を買ったらいいです。(tan anenuyep e=hok yak pirka.)」など

(5) 問題(3)の製品をもう少し見てみます。括弧の中は在庫の数です。



緑(50)



黒(20)

色や数を説明してください。(22-2, 22-3)

(例) 「この鉛筆は緑です。(tan anenuyep siwnin)」、「はさが20あります。(etuyep hot okay.)」など

#### 2. 「私たちは～」、月の表現

「空知から来る (Sorapci wa arki)」、「アイヌ語で話せる (aynu itak ani ukoitak easkay)」、「菱の実をたくさん採る (pekanpe poronno uk)」、「お土産を買う (imoka hok)」

(1) an=、=anの位置に十分注意した上で、「私たちは～」という表現を作ってみましょう。(25-構文)

(例) 「私達は、空知から来た。(Sorapci wa arki=an.)」「私達は、菱の実をたくさん採った。(pekanpe poronno an=uk.)」など

(2) 上の行為を行なった月のリストです。

- 「空知から来た」 >>> 一月
- 「菱の実をたくさん採った」 >>> 十月
- 「お土産を買った」 >>> 六月

月の表現も加えてみてください。(22-4, 25-構文)

(例) 「私達は、一月に空知から来た。(inomi cup Sorapci wa arki=an.)」「私達は、十月に菱の実をたくさん採った。(konni ran cup pekanpe poronno an=uk.)」など

#### 3. 「天気が良い・悪い」

- 札幌 (Satporo)
- 沙流 (Sisirmuka)
- 旭川 (Asankar)
- 釧路 (Kusuri)

(1) 天気のマークがあります。「天気が良い」「天気が悪い」という表現も作ってみましょう。(23-2)

(例) 「札幌は天気が良いです。(Satporo or ta sir pirka.)」、「釧路は天気が悪いです。(Kusuri or ta anakne sir wen)」など

(2) 「天気良かったから、～へ行った」、「天気悪かったから、～へ行かなかった」などの表現も作ってみましょう。(23-2, 23-構文)

(例) 「天気が悪いから、札幌に行かなかった。(sir wen keray kusu Satporo ekota somo ku=oman.)」、「天気良かったから、釧路に行った。(sir pirka keray kusu Kusuri ekota ku=oman.)」など